平成 28 年度 岩手県議会
海外行政視察 報告書

【調 査 先】英国（グロスター市ほか）

【調査目的】ラグビーワールドカップ 2015
イングランド大会開催に係る
取組及び成果等に関する調査

【調査期間】平成 28 年５月３日～５月９日

平成 28 年７月 27 日

平成28年度　岩手県議会　海外行政視察　報告書

目次

はじめに…… 3

Ⅰ 英国視察に至る背景

１ ラグビーワールドカップ2019日本大会開催決定…… 4
（1） 概要
（2） 大会の詳細
（3） RWC2019国内開催地（12会場）

２ RWC2019釜石開催に至る経緯…… 4

３ 釜石鵜住居復興スタジアムの現状…… 5

Ⅱ 視察団の調査概要

１ 調査の目的…… 6

２ 視察先及び調査内容…… 6
（1） ロンドン市
（2） グロスター市
（3） チェルトナム市

３ 派遣期間…… 6

４ 視察団参加議員…… 6

５ 行程表…… 7

６ 視察先地図及びRWC2015 開催地…… 8

Ⅲ 事前学習

１ 自治体国際化協会（クレアロンドン）…… 9

２ トゥイッケナム スタジアム…… 9

３ グロスター市役所…… 9

４ チェルトナムラグビークラブ（公認キャンプ地）…… 10

Ⅳ　調査結果

１　クレアロンドン…… 12

２　ﾄｩｲｯｹﾅﾑ　スタジアム…… 15

３　グロスター市…… 19

４　チェルトナム・ラグビークラブ…… 31

５　キングスホルム　スタジアム…… 38

Ⅴ　所感と提言

１　視察団として…… 41

２　各団員から…… 43

さいごに…… 53

（添付資料1）RWC2019日本大会に関するアンケート（英文）…… 54

（添付資料2）RWC2019日本大会に関するアンケート（日本文）…… 56

（添付資料3）上記のアンケート結果…… 58

（添付資料4）鵜住居復興スタジアム図案…… 60

はじめに

平成23年3月11日。岩手県民にとって忘れたくても忘れられないあの日。県内の死者行方不明者合わせ平成28年3月10日現在、5,797 名という大災害となる。

震災直後の8月、ガレキが残る釜石市に、かつてラグビー日本選手権7連覇の偉業を成し遂げた新日鉄釜石ラグビー部（当時）の石山次郎氏が訪れ、2019年ラグビーワールドカップ日本大会の開催地に被災地である釜石市が立候補しないか、との提案をしてくれた。

当時、マスコミもこのニュースを大きく取り上げ、市民、県民、国民を巻き込む論争となった。当時、県内にはまだ応急仮設住宅に入居する被災者の方が 31,000 人を超えていた。釜石市が試合会場の立候補を検討するにあたり、「スポーツなどやっている場合か」「国際大会をやる予算があるなら復興に使え」「復興を成し遂げた被災地を世界に示す絶好の機会だ」「そもそも出来るはずがない」など、市民県民を巻き込んだ論議となった。

その中で国、岩手県、県内の自治体、国内のラグビー関係者など多くの関係機関からの応援を頂き、最終的に平成26年7月に岩手県の達増拓也知事と釜石市の野田武則市長がラグビーワールドカップ2019日本大会の開催地に釜石市を会場として共同で立候補することを表明し、翌年平成27年3月に釜石市が開催地12会場の1つに選ばれることが正式に決定した。

5年前の震災で、岩手に対し世界191カ国から支援の申し入れ、見舞いの言葉を頂いた。この国際大会は、岩手と被災地が復興した姿を全世界に示し、感謝を表す絶好の機会となるはずである。震災当時、「もうだめだ」とあきらめかけた被災者に絶対の自信と誇りを取り戻す最高の機会となるはずである。

岩手県と釜石市はラグビーワールドカップ2019日本大会の釜石会場の名前を「鵜住居復興スタジアム」と名付けた。大会開催は復興なのだ。RWC2019を「絶対に失敗出来ない」「必ずいい大会にするのだ」との思いを持った議員12名で英国視察に出発した。

平成 28 年7月 27 日

岩手県議会　英国視察団
団長　伊藤　勢至

Ⅰ 英国視察に至る背景

1 ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催決定

(1) 概要

ラグビーワールドカップ(RWC)は4年に1度のラグビー世界一決定戦であり、国や地域の代表チームが参加する。1987年(昭和62年)に第1回大会開催(ニュージーランド・オーストラリア共催)。2019年(平成31年)第9回大会が日本開催で、強豪国(ラグビー伝統国)以外で初、アジア地域でも初のRWCとなる。(2016年リオオリンピックから男女7人制ラグビーが正式競技)

(2) 大会の詳細

① 主催　ワールドラグビー
② 開催時期　2019年(平成31年)9月20日～11月2日
③ 参加チーム　20チーム(国・地域)
④ 試合形式(全48試合)
予選プール(9月20日～10月12日)40試合　5チーム×4プール(総当り戦)
決勝トーナメント(10月19日～11月2日)(8試合)準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝
⑤ その他
ア 2015 年英国大会は主催者発表で経済効果が推定 4,200 億円、外国人来訪者が 40 万人
イ 日本は全8大会に出場し通算成績は4勝2分22敗。今般の英国大会では1次リーグ敗退ながらも優勝候補南アフリカに歴史的な勝利を挙げるなど初の3勝をマークし、国内のラグビー人気上昇とともに 2019 年大会への期待が大いに高まっている。

(3) RWC2019国内開催地(12会場)(決定済)

開催都市	試合開催会場	備　考
① 札幌市	札幌ドーム	
② 岩手県・釜石市	釜石鵜住居復興スタジアム	共同開催
③ 埼玉県・熊谷市	熊谷ラグビー場	共同開催
④ 東京都	東京スタジアム	開幕戦、決勝戦
⑤ 神奈川県・横浜市	横浜国際総合競技場	共同開催
⑥ 静岡県	小笠山総合運動公園エコパスタジアム	
⑦ 愛知県・豊田市	豊田スタジアム	共同開催
⑧ 大阪府・東大阪市	花園ラグビー場	共同開催
⑨ 神戸市	御崎公園球技場	
⑩ 福岡県・福岡市	東平尾公園博多の森球技場	共同開催
⑪ 熊本県・熊本市	熊本県民総合運動公園陸上競技場	共同開催
⑫ 大分県	大分スポーツ公園総合球技場	

2 ラグビーワールドカップ2019釜石開催に至る経緯

・平成 20 年　8月　日本ラグビーフットボール協会がラグビーワールドカップ2019開催国の入札参加を表明
・平成 21 年　4月　RWC2019日本招致を閣議で了承
・平成 21 年　6月　RWCリミテッドが日本をRWC2019開催国に推薦
・平成 21 年　7月　IRB理事会にて日本がRWC2019開催国に決定
・平成 23 年　3月　東日本大震災津波発生

・平成 23 年　8月　「スクラム釜石」等ラグビー関係者が釜石市に対しRWC2019誘致の提案
・平成 23 年 10 月　釜石市から鵜住居地区の住民に概要説明
・平成 23 年 12 月　釜石市民有志による「釜石RWC2019を語る会」開催（以後2回開催）
釜石市復興まちづくり基本計画にRWC2019誘致を記載
・平成 24 年　1月～　3月　釜石市が岩手県副知事、文部科学省、国土交通省、復興庁、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会、岩手県ラグビー協会、近隣市町村に今後の活動方針を説明
・平成 24 年　5月　釜石市民有志「RWC2019釜石誘致応援事業」展開
・平成 24 年　6月　元神戸製鋼ラグビー選手平尾誠二氏等と「RWC釜石誘致応援フォーラム」を開催
・平成 24 年　7月　岩手県議会において「復興スクラム議員連盟」設立
釜石市教育委員会事務局スポーツ推進課に「RWC誘致推進室」設置
・平成 24 年　9月　岩手県議会復興スクラム議員連盟がRWC2019釜石開催を平野達男復興大臣（当時）へ要望
RWC2019釜石誘致関係者会議（釜石市、スクラム釜石、復興スクラム議連）（日本青年会館にて）
・平成 24 年 10 月　嚶鳴協議会で東海市など13自治体が釜石を支援する決議
・平成 25 年　1月　鹿島アントラーズ小笠原満男氏と「RWC2019釜石誘致応援タウンミーティング」
・平成 25 年　3月　愛知県東海市において「RWC2019釜石誘致応援タウンミーティング」開催
釜石ブリッジプログラム中学生17人をニュージーランドへ派遣
・平成 25 年　5月　RWC組織委員会「大会ビジョン」「試合開催会場選定プロセス」発表
・平成 25 年　6月　RWC2019日本大会成功議員連盟設立（国会議員による）
・平成 25 年　9月　「ラグビーカフェ・クレスト鵜住居」が釜石にオープン
・平成 25 年 10 月　日本ラグビー協会森喜朗会長が釜石シーウエイブスの地元戦を観戦。釜石市内視察
・平成 26 年　2月　RWC2019組織委員会との実務協議、釜石視察
・平成 26 年　5月　釜石市民有志による「RWC釜石誘致推進会」発足
RWC2019開催都市立候補プランを岩手県と釜石市が協議
・平成 26 年　6月　「RWC釜石誘致推進会」が野田釜石市長に開催都市立候補を要望
RWC成功議員連盟（国会）議員、RWC組織委員会の釜石視察
RWC2019開催都市立候補に関する釜石市による岩手県知事、県幹部への折衝
RWC2019開催都市立候補プラン協議
岩手県と釜石市が日本スポーツ振興センターと文部科学省へ折衝
・平成 26 年　7月　釜石市が開催都市への立候補を表明
釜石市議会全員協議会でRWC2019開催都市立候補プラン説明
・平成 26 年　8月　RWC2019釜石誘致推進会主催タウンミーティング「ラグビーと男女共同参画の推進」（日本ラグビー協会稲沢理事講演）
・平成 26 年 10 月　岩手県と釜石市が共同でRWC2019開催希望申請書をRWC組織委員会へ提出
・平成 27 年　3月　岩手県釜石市がRWC2019の国内12の開催都市の1つに決定

3　釜石鵜住居復興スタジアムの現状

開催都市決定時点で開催都市12会場でグラウンドがないのは岩手・釜石だけ

Ⅱ　視察団の調査概要

１　調査の目的

2015年に英国で開催された「ラグビーワールドカップ2015イングランド大会」において、地方の開催都市による開催準備、運営等の取組内容や課題、成果等に関する調査を実施し、県政への政策提言等を行うことにより、2019年のラグビーワールドカップ日本大会の開催地の1つである岩手県釜石市の円滑かつ効果的な取組の推進に役立てることを目的とする。

２　視察先及び調査内容

イングランド大会の開催都市中、釜石市と競技場の収容規模が同等であるグロスター市等を視察先とし、W杯開催に関する取組をはじめ、競技施設の整備、運営状況、公式戦の運営状況、宿泊施設及び交通輸送手段の確保、外国人等の受入やキャンプ地の取組、W杯等における経済、地域活性化効果等について調査を行うもの。

(1) ロンドン市
- 自治体国際化協会ロンドン事務所訪問調査
- ラグビー専用競技場（トゥイッケナム・スタジアム）視察

(2) グロスター市
- RWC開催に係る取組についての市ヒアリング調査
- 市長等グロスター市幹部との会談、意見交換
- ラグビー専用競技場（キングスホルム・スタジアム）視察
- 一般客を対象としたアンケート及び公式戦視察による大会運営状況調査

(3) チェルトナム市
- イングランド大会における公認チームキャンプ地（事前合宿地）視察

３　派遣期間

平成28年5月3日（火）から平成28年5月9日（月）（7日間）

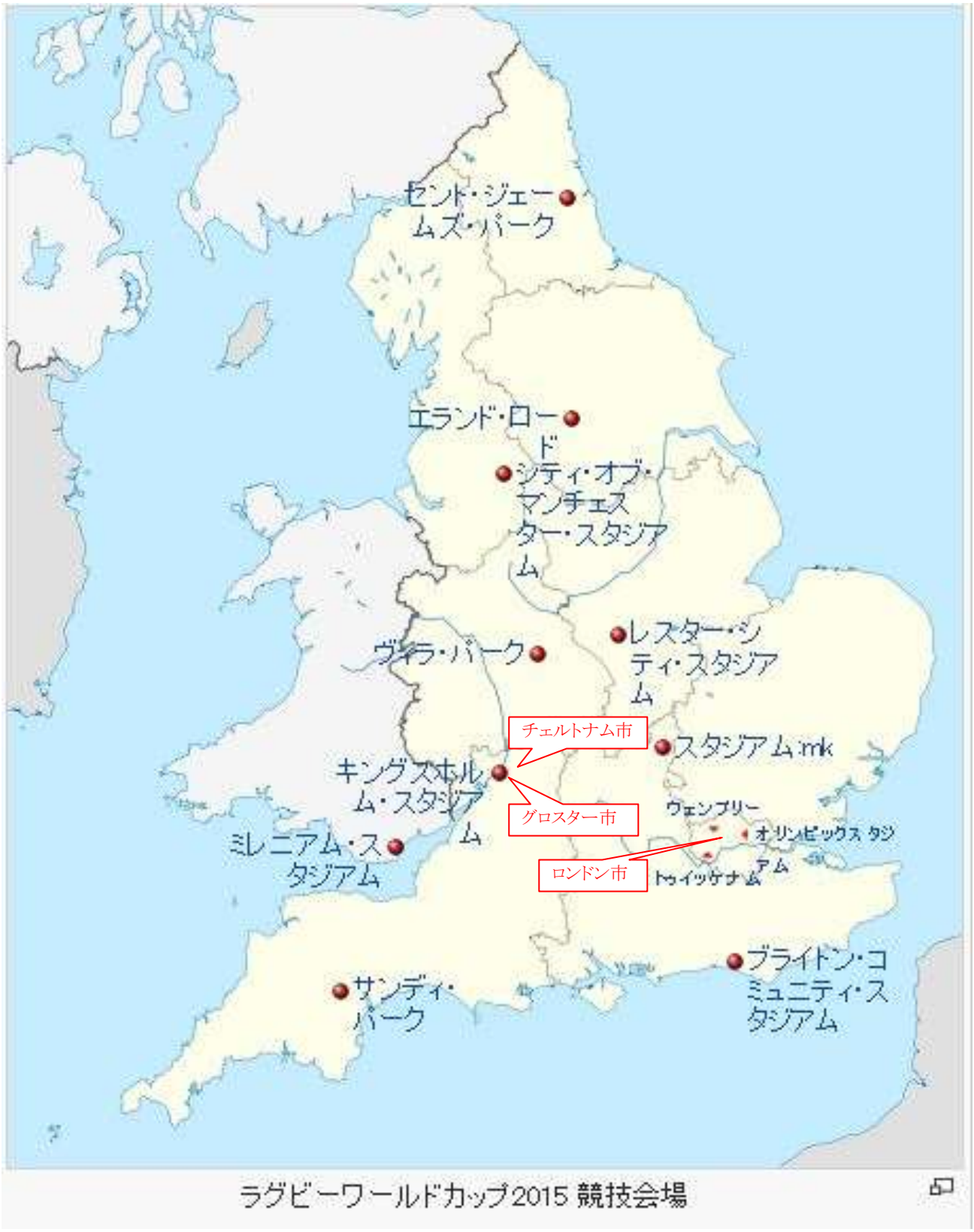
４　視察団参加議員（12名）

伊藤　勢至（団長）	飯澤　　匡（副団長）	樋下　正信	小野　　共（事務局長）
軽石　義則	名須川　晋	工藤　勝博	髙橋　　元
嵯峨　壱朗	城内　愛彦	神﨑　浩之	佐々木　宣和

５ 行程表

現地日時		場 所	交通手段	備 考
5月3日（火）	－	居住地⇒都内（泊）	鉄路	前泊
5月4日（水）	9:00	羽田空港国際線ターミナル集合	鉄路	
	11:20 15:50	羽田空港⇒ロンドン・ヒースロー空港	空路	JL043
	到着後	空港⇒宿舎（ロンドン市内）	専用車	
5月5日（木）	－	市内移動	専用車	
	10:00 12:00	CLAIR（一般財団法人自治体国際化協会） ロンドン事務所訪問調査	－	
	14:00 16:00	トゥイッケナム・スタジアム（ラグビー専用競技場） 視察調査 ⇒宿舎（ロンドン市内）	専用車	市内昼食
5月6日（金）	8:30	宿舎⇒グロスター市（13:00 頃）	専用車	市内昼食
	13:00 16:15	グロスター市訪問調査（市長表敬訪問等） （市役所及びキングスホルム・スタジアム）	－	
	17:00	市内⇒宿舎（チェルトナム市内）	専用車	
5月7日（土）	9:30	宿舎⇒チェルトナム市	専用車	
	10:00 12:00	事前キャンプ地視察調査 （チェルトナム・ラグビークラブ）		
	12:00 14:30	チェルトナム市⇒グロスター市	専用車	市内昼食
	14:30 17:30	英国プレミアシップ視察調査（キングスホルム・スタジアム）	－	
	18:00 21:00	グロスター市⇒宿舎（ロンドン市内）	専用車	
5月8日（日）	－	休養（自由行動）	－	
	17:00	ロンドン・ヒースロー空港着	専用車	
	19:00	空港発（機内泊）	空路	JL044
5月9日（月）	15:55	羽田空港着	－	
	到着後	空港⇒居住地	鉄路	

6　視察先地図及びRWC2015開催地



Ⅲ　事前学習

4月15日（金）午後1時から午後4時まで議会棟1階大会議室において訪問先に関する資料について視察参加議員全員（12名）で事前学習した。それぞれの訪問先に調査内容と具体の質問項目を事前にメールで送り、訪問当日にこれら質問事項に対する回答を中心に説明を受けることも確認した。

それぞれの訪問先に送った事前の質問事項（主な調査事項）は下記の通り。

1　自治体国際化協会（クレアロンドン）（訪問予定日：5月5日10：00AM～12：00AM）

- 姉妹都市の意義、締結までの手続き
- 外国人観光客の受け入れ効果（岩手県にとって）
- RWC2015開催の英国での経済効果
- ラグビーワールドカップ開催にあたる自治体の役割
- 国際大会開催の機運醸成のために開催自治体、周辺自治体の役割、出来る事、国、県、市町村の役割
- 治安対策で気を付ける事
- RWC2019岩手へのアドバイス
- 「岩手らしい大会」とはどのようなものか

2　トゥイッケナムスタジアム（ラグビー専用競技場、ラグビー博物館）（訪問予定日：5月5日　13：00～17：00）

- How many games are held at your stadium in 1 year ？（年間のゲーム数）
- How many spectator visit at your stadium in 1 year ?（年間入場者数）
- The maintenance costs of the ground in 1 year ?（グラウンド年間維持費）
- Operating ratio of the ground in 1 year（グラウンド年間稼働率）
- Regarding the ground, how about the review from the player and the user ? Do they have anything requests or complains about the field? Also what is the different point of your stadium by your repair work before and behind RWC ？（グラウンドに対する利用者（選手）からの評価、要望。その対策（RWC2015改修でどう変わったか）

3　グロスター市役所（5月6日　14：00～17：00）

- What is the total capacity of accommodation (rough number of the hotel rooms, and the total capacity) in Gloucester area?（市内の宿泊施設、部屋の数、収容人数）

・How far was the accommodation for RWC teams from the Kingsholm Stadium?（選手の宿泊ホテルからキングスホルム球場までの時間距離）

・What was the distance between the Kingsholm Stadium and the places for camp used for national teams who had matches in Gloucester? （キャンプ地からグラウンドまでの時間距離）

・Have you held any pre-match event(s) before RWC in Gloucester?（プレ大会について）

・Kamaishi City is studying to utilize large size cruise ships as "floating hotels" during the 2019 RWC since the capacity of the accommodation is not enough. Do you think it is acceptable for the foreign visitors?（岩手大会時、宿泊施設としての客船の可能性）

・Have you utilized private houses as accommodation during the RWC in order to compensate for the shortage of accommodation? （民泊の可否）

・What did you arrange and do in order to make Gloucester city and citizens' atmosphere uplifted for the RWC? （RWCの機運醸成の取組）

・What were the benefits and disadvantage / loss for Gloucester to held the RWC matches? （RWC開催の自治体にとってのメリットとデメリット）

・What were the success and failure in hosting the RWC in Gloucester?（グロスター開催で失敗した事、成功した事）

・How did you build a relationship with the RWC Org? （組織委員会との関係）

・What are the items you raised as requests to RWC Org?（組織委員会への要望項目）

・Do you have suggestions / advices for Iwate and Kamaishi?（岩手、釜石へのアドバイス）

・Eve if England does not have a match at Kamaishi in 2019 RWC, would you like to come to Kamaishi?（イングランド戦が釜石でなかったとしても、釜石に来たいと思うか）

・Are you interested in World Heritages located in Iwate Prefecture? （岩手の世界遺産に興味があるか）

・How do you utilize the Kingsholm Stadium during rugby off-seasons?（オフシーズンのグラウンドの使用方法）

・What is the size of the annual budget to maintain the Kingsholm Stadium?（キングスホルム球場の年間維持費）

4 チェルトナムラグビークラブ（公認キャンプ地）（訪問予定日：5月7日 10：00～12：00）

・Minimum number of field required for the criteria （キャンプ地誘致の為のグラウンド数）

・Maximum travel time to the stadiums the games are taking place.（キャンプ地からグラウンドまでの最大時間距離）

・What is the general criteria/guideline given to be selected for a team base.（キャンプ地に選ばれるための条件）

・Bidding process and what effort/actions were taken to be selected. （キャンプ地選定に向けた取組）

・Positive impact gained after being chosen for a team base （キャンプ地としてのメリット）

・Did you create an opportunities for the local residents to be able to meet/socialise with the teams? （地元住民との交流）

（事前学習の様子）

Ⅳ 調査結果

1 クレアロンドン

調査先	自治体国際化協会ロンドン事務所	平成 28 年5月5日(木) 10:00～12:00

調査内容:ラグビーW杯 2015 イングランド大会等に係る現地の取組等について

次　第(進行:小野共事務局長)

(名刺交換)

1　開会

2　団長あいさつ

3　視察団自己紹介

4　先方あいさつ

5　クレア側説明

6　質疑応答

7　閉会(調査対応御礼:伊藤団長)

(御礼品(県産品)の贈呈)

相手方　　自治体国際化協会ロンドン事務所　浅田　努　次長

(最初に)

○　クレアについて

CLAIR(自治体国際化協会)が運営する7つの海外事務所の一つである。平成元年10月開所。ロンドンの他、ニューヨーク、パリ、シンガポール、シドニー及び北京に事務所を構える。ロンドン事務所は職員12名でうち8名が日本から派遣。ロンドン事務所の担当地域は9カ国(英国、アイルランド、ドイツ、オーストリア、オランダ、デンマーク、ノルウエー、スウェーデン、フィンランド)

○　クレア事務所の役割

・　調査(自主調査・依頼調査)
　-日本の自治体の政策形成を支援
　-クレアレポート、マンスリーレポートなどの発行

・　活動支援
　-日本の自治体が海外で行う活動を支援
　-調査活動や経済活動(最近は経済活動支援の比重が増加しているとの事)

・　JETプログラムの推進
　-帰国後の経験者の活動支援

(1) クレア側説明(パワーポイント使用により以下の概況を説明)

- クレアロンドンの活動概況
- 英国の経済状況
- 英国の行政制度
- 自治体と欧州の交流状況
- ラグビーワールドカップ2015イングランド大会の概況
- 同大会の経済効果

(2) 特記事項

- イングランド大会開催の英国内の経済効果について
- 大会中、海外からの誘客46万人
- 経済波及効果 22 億～27 億ポンド*(3,520 億円～4,320 億円)
  ＊1£≒160円(H28.5末)として計算。(以下同様)
- その他にも開催による広汎な効果 として、
  ① 地元の一体感の高まり
  ② ラグビー競技人口の増加
  ③ ビジネス面のレガシー
  ④ 観光スポットとしての認知度向上 など、多数の好影響が考えられる。

➢ 各ファンゾーンの形成について

基本的にはラグビーを通じた人々の交流の場である。家族・親子が気軽に参加して楽しめる場所を用意・提供すること。

➢ 機運醸成の状況

- トロフィーツアーの活用
- ラグビーフェスティバルの活用

音楽イベントや演劇等、多様な分野が一体となって地域をあげて大会PRや集客に繋がる活動を実施。

＜質疑応答＞

Q1:ワールドカップを契機として釜石とグロスター市が姉妹都市交流を行うとした場合の意義はどのような点にあると考えるか。

A: 次世代の(人々の)国際化への意識づけという意義があると考える。ラグビー交流をはじめ、BtoB、経済交流の切り口としても、姉妹都市がきっかけとなることはあるかもしれない。

Q2:岩手らしい大会とはどのようなものをイメージするか。

A: 英国ではあまり多くないが、日本の場合なら、地元の食文化など特産品を全面に PR するというやり方もあるのかもしれない。

Q3:アジア初のワールドカップということで機運醸成が難しいように思うが、助言等如何。

A: イベントという意味では特に日本の既存のイベントと異なるような変わったことをする必要はない。各自治体のノウハウが通じる部分も多いと考える。ただし、町中の標識、表示は充実させる必要がある。ファンゾーンは、パブなどの飲食の可能な場を設置することも重要。

Q4： 英国大会時の国内移動手段はどのようなものだったのか。
A： 鉄道、飛行機など公共交通が主であると思う。

Q5： ファンゾーンの運営主体は？
A： イベント会社が主だったと思う。

Q6： 今回のような議会の視察団は他の開催都道府県でも来ているか
A 大会後は岩手県議会が初の視察団である。

Q7： 機運醸成のための関連イベントは自由にどこでも出来たのか。
A： 今後、日本大会のマーケティングルールも示されるのでそちらを確認されたい。

（ヒアリング調査の様子）

2 トゥイッケナム・スタジアム

調査先	トゥイッケナム・スタジアム	平成 28 年5月5日(木) 14:00～16:00

調査内容:イギリスにおけるラグビー専用競技場の施設・設備等に係る現況について

次　第(進行:小野共事務局長)

(ガイドとの名刺交換)

1　現地ガイドによる施設案内・説明　(質疑応答)

2　ラグビー博物館視察

3　対応御礼(伊藤団長)

相手方　　スタジアム　ボランティアガイド:マーチン　イーレイ　氏

(最初に)

トゥイッケナムスタジアムについて

82,000 人収容のラグビー専用競技場でイングランド代表の本拠地。ラグビーの聖地として名高い。1909 年の誕生から100年超の歴史を持つ。1991年RWCでも開幕戦と決勝戦が行われた。ワールドラグビー博物館が併設。

トゥイッケナム・スタジアムの概要

- ラグビー発祥の地イングランドにおける「聖地」と称されるのがトゥイッケナム・スタジアム。イングランド代表のホーム・スタジアムであり、1991 年と 2015 年のラグビーワールドカップでは、開幕戦及び決勝戦の会場になった場所である。
- RWC2015 イングランド大会の開催の際には約 1,700 万ポンド(約 27 億円)を投じ、大規模な施設改修を行った由。

(特記事項)

- 国際大会の収入は約 1,000 万ポンド(16 億)、これに対して経費は 450 万ポンド(7 億)

【トゥイッケナム・スタジアムの主な収入源】

1位:チケットセールス(座席収入)
2位:ホテル(マリオットホテル)
3位:会員制ジム(バージングループ)
4位:ラグビーショップ
5位:イングランドラグビー協会のオフィス収入
6位:ボックスルーム利用料(会議室等)

- 法人・団体向けボックス・ルームについて
  コーポレイト・ホスピタリティが重要である。ラグビーゲームがないときの安定的な収入源として、法人・団体向けのボックスルーム（観覧室）が重要な機能を担っている。現在合計150 室のボックスルームを有している。（定員＠10 人～25 人）

- スタジアム収益はイングランドラグビー協会に還元している。（収益の10％をプロチームへ、残り90％をアマチュアのクラブチームへ）
  これらが元手になり、イングランド内の各地方のラグビーチームに助成金や貸付金として還元されれる仕組みとなっている。

- 年間のグランド維持費については回答できないが、常勤のメンテナンス・スタッフが4人いるほか、大会時の臨時のメンテナンス・スタッフを採用している。

- 芝生はハイブリッド（人口芝10％）であり、RWC2015 大会に併せ全面張り替えたところ。排水設備完備であり、冬場は温水を通し霜害等を防いでいる。

- 年間のラグビーデイ（ラグビーゲームのある日）は、プロチーム、アマチュアチーム（大学、高校等）を併せても合計約30日程度。（一見少ない印象だが、ラグビーという競技特性を考えれば妥当な数字であるとの事）

- 毎年9月から翌年5月までがシーズンイン。シーズン中は、試合間の間隔を4週間としている。

- 有料試合のチケット価格の相場観について
  公式戦の開幕戦やプレーオフ等のビッグゲームの場合：
  最大 110 ポンド（約 18,000 円）、最低 40 ポンド（約 6,400 円）

- 障がい者向けの座席について
  車椅子席　約400席。登録制になっており、現在会員数が700名
  利用料は無料。介護者も無料。

- 警察官の配置状況
  ラグビーゲームの場合、会場での警察官の配置はゼロであるとの由。これまでもビッグゲームの場合でも例外はないとのこと。

- ワールドカップ時の運営スタッフは専門の人材派遣エージェントを通じて募集。
  アルバイト 4,000 人+800 人（無償ボランティアスタッフ）

- テレビ放送権はRWC2015 大会の約4年前に締結（BBC）

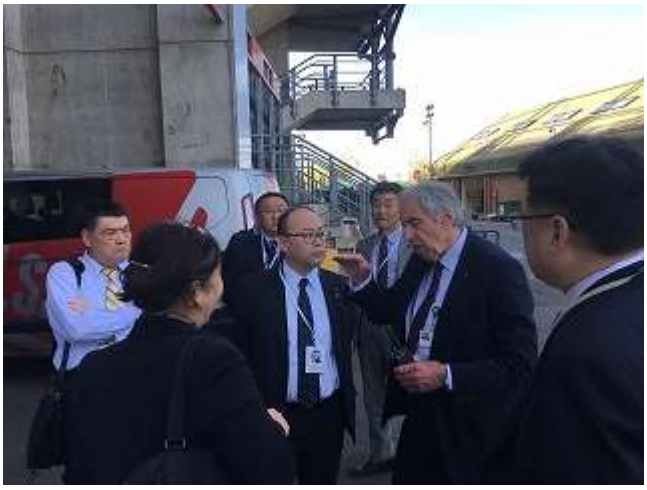
➢ スタジアムへのアクセス手段

最寄駅から徒歩 15 分と近接していることからイングランド大会時は3万人が鉄道を利用。また、P＆BRで近郊のリッチモンド駅からシャトルバスを運行し、周辺道路は閉鎖した。

（所感）

他の国の団体による視察も我々の視察の時間帯と被っていたがボランティアガイドの方は岩手県議団の視察を優先してくれた。理由を聞くと、「とても熱心で感動した」との事。

トゥイッケナムでは国際試合でも警察官は配置しないとの事。「何人配備すると思うか」とのガイドの質問に「50人」と答えた小野議員。「500人」と答えた嵯峨議員。答えは「ゼロ」。「ラグビーファンはマナーが良いのだ」とのガイドの説明。



（スタジアム外観）

（スタジアム最上階の法人向けボックスルーム前）

（最前列が車椅子利用者用の座席）

（試合時にはスタジアムの至るところが企業公告で溢れる）

（選手ロッカールーム）

3 グロスター市

調査先	グロスター市役所	平成 28 年5月6日(金) 13:00～16:15

調査内容:グロスター市におけるW杯 2015 大会時の取組・成果等について

次　第(進行:小野共事務局長)

■グロスター市長夫妻及び副市長表敬(13:00～14:00)

1 グロスター市長のご挨拶及びプレゼント品の受け渡し

2 岩手県議会より返礼(状況に応じて記念撮影)

3 団長あいさつ

4 視察団自己紹介

■RWC2015 担当アダム・ボールディング氏(現在はコンサルタント業に従事)からの招致取組等の説明(14:00～15:00)

1 RWC2015 開催におけるグロスター市の取組説明

2 RWC2015 最終結果(成果)等の説明

3 質疑応答

■キングスホルム・スタジアムの実地視察＆レクチャー(15:15～16:15)

1 グロスターチーム・コマーシャルダイレクター(マイク・ターナー氏)ご挨拶

2 プレゼント品の受け渡し

3 岩手県議会より返礼(状況に応じて記念撮影)

4 団長あいさつ

5 スタジアムの概要等説明

6 質疑応答

7 対応御礼(伊藤団長)

(最初に)

グロスター市について

名称:Gloucester

面積:40.54 ㎢(ロンドンから西に約 150 ㎞に位置する)

人口:約 12 万 5,600 人(2014 年)

市政開始:西暦 1,155 年

議員数:36 名

特徴:運河の町として繁栄。航空・宇宙産業が伝統的に盛ん。

・ グロスター市視察の背景

約 16,500 人収容のRWC開催スタジアムで開催地で2番目に小さなグラウンドであり、よって決勝トーナメントのゲームは行われず予選プールのみの試合が開催。16,000 人収容のスタジアムは岩手釜石会場と同規模であることの理由から岩手釜石がRWC開催地に立候補を決めてからかなり早い段階でキングスホルムスタジアムを持つグロスター市に注目していた。

昨年の英国大会では岩手県のラグビー関係者から成る英国大会視察団がやはりグロスター市を訪れ、今回の視察で我々に対応してくれたセバスチャンフィールド市長に本県達増知事と野田釜石市長連名の親書を渡し、2019年日本大会に向けた交流拡大を申し入れている。

セバスチャン・フィールド市長歓迎挨拶

- グロスターに日本の岩手県議会視察団の御一行をお迎えし、歓迎の辞を述べさせていただくことは大変光栄なこと。市長の任期中のハイライトと言える場面の数々の中でも、特筆すべきはラグビーW杯の開催であった。(※グロスター市長は今期限りで引退される由)
- 昨年度の岩手県のラグビー協会視察団に引き続き、同じ岩手県から今度は県議会の皆様が訪問してくださったことを大変嬉しく思う。
- 釜石市、岩手県という場所が、このグロスター市、グロスターシャー県と、大変多くの類似点、共通点があるのではないかと考えている。
- 1つ目は、“ラグビークレージー”と言えるほどラグビーのことを愛している町である点。
- 2つ目は、東日本大震災という大きな被災を経て、復興尽力をしていると伺っているが、グロスターもかつて水害で大きく被災した町であり、町の再開発という形で我々も長らく取り組んできたという点である。
- そして、3つ目はラグビー(ワールド杯)を通じて復興に取り組み貢献していくという点である。
- 昨年度日本代表チームがグロスターで試合をしたとき、私たちは日本代表チームを心から歓迎した。日本の桜のジャージはグロスターチームのそれと非常によく似ている。そして、また日本のファンは皆温かく、大変明るく好感度の高い人々であった。
- そして、ワールドカップといったレベルになると、これは大変大きな再開発を伴うプロジェクトであり、開催するに相応しいプライドといったところが大変重要なポイントになってくる。
- 本日は、ワールドカップの運営について、当時の責任者アダム氏を同席させるので何でも聞きたいことを質問してほしい。

■RWC2015 担当アダム・ボールディング氏からの招致取組等説明

＜グロスター市W杯担当(コーディネーター)として採用されたアダム氏の経歴＞

元プロラグビー選手。グロスターラグビークラブをはじめ、通算 15 年間にわたり、英国国内リーグにおいてプロとして活躍(ポジションはフランカー、NO.8)。

現役引退後、早速グロスター市からワールドカップ開催のための市のコーディネーター職として採用(3年間の期間限定)される。同市の親善大使にも任命されており活躍中。

【アダム氏の言うグロスター市におけるRWC開催による3つのレガシー】

1　W杯開催を契機としたスポーツ関連の施設・設備の整備促進（ハード整備的なもの）
- 町の中心部等における、次世代の子供たちのためのグランド整備等が促進されたこと。
- 記念ベンチの設置（開催地グロスター市の魅力を伝えていくにふさわしいもの）

2　W杯を機に、市民が健康促進、スポーツにより積極的に参画してくれるようになったこと。
より活発に、アクティブに生活していただく。ラグビーにとどまらず、実生活の中でより健康的に暮らすといったところも含めて。

3　市民のプライドの醸成
これが一番重要なレガシー。例えば観光客の方がグロスターに行きたいと思うこと。一回来て終わりではなくて、またグロスターに来たいと思っていただけるようにする。そういったところでも養われる町として或いは市民としての誇り（プライド）を醸成することに繋がったことが最大のレガシー。W杯を介して、2019 年日本大会の開催地岩手県・釜石市との交流を深められることがその例。

【開催都市としての重要課題について】
- 第1に予算確保・財務のやりくり。
細部にわたる注意を払いプランニングを行い、実現可能性を見極めた活動を実践することが重要。
- 地元住民、企業等とのコミュニケーションを継続的にとること。
  - ワールドカップ終了後を見据え、地元住民・企業への考慮あるいはニーズを理解して取り組んでいくことが重要。
  - 明確な戦略、目標を持ち、多様な活動をともにしていくパートナーと共有すること。

【開催都市としての責任・役割等について】
- 英国で開催されたラグビーワールドカップは 2015 年を含め過去3回。（ホスト国：イングランド2、ウェールズ1）
- 開催地となったキングスホルム・スタジアムは、1891 年開場の歴史と伝統のスタジアム。立ち席が多いのも特徴。（但し、2015 大会に際して改修工事は行われた模様）
- グロスター市での試合開催は4回。全試合、予定どおり開催され、開催都市としての責任を果たしたと認識。
- 成功の理由は、全市民が何らかの形で開催に関わり、サポートしたという点に集約される。
- 開催地に選ばれること自体が大変な名誉であることには間違いないが、それに先駆けて、そのためには3年という期間に及びさまざまな機関と連携をとりながら、パートナー機関と取り組むという地道な活動が不可欠。
- プロジェクトボード（委員会）は多様な機関で構成されているため、他機関と連携して活動を円滑に進めていく作業というのは容易ではなかった。

- 月例で顔合わせを行い、ワールド杯関連のことであればそこで審議をするというような、足並みが揃っていなければ機能しない。関係機関が同方向に向かい、同じペースで進めていくことが肝要。
- 2015 イングランド大会のホストシティ同士が、連携・協働することも重要。良好な関係を保ちながら協働していくことで全体としてよい方向に向かうことができる。
- 多様な連携主体（例. ラグビー連盟、地元ラグビークラブ、県、各種学校、地域の各種団体）とのつながりを重視。
- 住民とのコミュニケーションも重要。
  開催に際して、市民・住民の支援を得ることが重要だったが、一方で大会が住民生活に及ぼす影響についての懸念もあった。そういった中で、準備運営が円滑に進んだ要因はコミュニケーションのよさ。様々な情報提供・更新を毎月行った。

【開催地の予算について】

- グロスター市の開催地予算は 35 万ポンド（約 6,000 万円程度。これが3年間の準備期間も合わせたトータルの予算か 2015 年の開催年の予算かは確認できず）で非常に厳しい予算であった。
- このような厳しい予算のため、連携・協働していくパートナー機関に対しては所要の費用をそれぞれで負担してもらいようにしたり、追加で発生する予算があったら、パートナー機関に協力をもらうようにした。
- 外部予算の積極的活用・獲得に取り組むこと。
  具体例としては、アートカウンシルという文化芸術活動に対する助成団体から8万ポンド（約 1,300 万円）の補助金をもらい、大会開催の前の6週間にかけて行った文化プログラム（機運醸成イベントのようなものか？）の予算に充てた。

【地元のプロジェクト・ボード（地元官民による推進委員会）の存在について】

- プロジェクト・ボードとは、大会運営のための市議会、州議会、地元ラグビーチーム、マーケティング会社等の人材で構成する委員会。
- アダム氏自身は同組織のコーディネーター、調整役として参画。主にW杯の開催に向けたスケジュールマネジメントを担当した。

＜グロスター市（市議会）の役割＞

- プロジェクト全体のリード役
- ファンゾーン （市内装飾）の企画
- 地域社会参加/ボランティア / 文化的プログラムの実施
- 権利保護
- 地域・住民とのコミュニケーション
- レガシー創出と施設整備、住民参加

- 元々、運河を生かした美しい景観の街だが、W杯を契機として訪れる多くのファンの方々にとって、W杯の開催地としてふさわしい街として一層見栄えを良くしなければいけないと考えた。
  “ビジターエクスペリエンス”＝来訪者それぞれが持つ印象・体験というものをよくするために例えば、ワールドカップにふさわしいようなバナーや幟等を街のあちこちに掲げ、機運を盛り上げていく活動を展開。
- その際いわゆるアンブッシュ・マーケティング（W杯組織委員会や企業スポンサーが持つ権利を侵害する行為）への事前チェック等の対応も重要な役目。
- スポーツに関する参画につながるような施設を充実させて、スポーツ設備を充実させていくということがレガシーの1つ。
- W杯来訪客から観光目的で是非グロスター市に行ってみたいと選ばれるような町になっていくこともレガシー。ビジネスで投資対象に選ばれることもレガシー。

＜グロスターシャー州（県）の役割＞

- 交通・輸送手段の確保

- 州議会は大会開催時の交通輸送手段を確保し、円滑なものとするため、多数のステークホルダー、パートナーと協力してくれた。公共交通機関、道路管理、清掃会社、駐車場、警察、消防など全てを考慮する必要があり、それら団体とうまく連携できたことが、開催地として成功した要因の1つ。

【ファンゾーン設置に係る取組について】

- ファンゾーンは、W杯期間中、ラグビーファンが安全に楽しく過ごせるようにするために欠かすことのできない存在。
- まず最初に決定すべきことはどこに設置するかと場所・ロケーションの問題。

＜ファンゾーン設置の際の検討ポイント＞

- グロスターに来るビジターのW杯体験の一部になるような存在にすること。
- 鉄道駅、バスの駐車場から近い位置であること。
- 町の中心地でなければいけないということ。
- スタジアムに徒歩圏内であること。

- 設置にあたっては、一定規模の必要な大きさを備えた上で、他の開催地のファンゾーンとの差別化が図られるようなユニークさというものも目指した。
- そして、選出したのがこのドックと我々が呼んでいるかつての港の敷地であったところ。グロスターのシンボル的な場所。
- 10 月という季節柄、悩んだのがオープンエアにするのか、クローズドにするのかということ。
  最終的にはオープンエアに決定したのは、スタジアムにいる擬似感覚のようなものができるのではないかと考えたから。

- 事前の予想がつかなかったことは、ファンゾーンが住民の方々、地元のビジネスにどれぐらいの影響を与えるのかということ。一体どれぐらいの方が来られるのか想定がなかなかできなかったため。その中で、どれだけ予算を付けるか、ファンゾーンの開催期間、開催時間を決めることにも苦労をした。
- 最終的にそういった課題を考慮して、ファンゾーンを開催する日程というのは、3週間のうちの 11 日間になった。結果的に住民、そして企業関係者にとってもちょうど良い日数だったという評価を得ることができた。
- デザインについては、スタジアムのミニ版みたいな会場をイメージした。(ゴールポストに見立てた 2 本のポールの真ん中のところが巨大スクリーンを配置した)
- 入場無料。いわゆるブランドスタンドといったようなデザインというものを目指した。人工芝のようなカーペットを敷き、そのうえにスタンディングバーや飲食関係の屋台を設置した。
- 家族ファン向けにファミリーゾーンというものも別途用意した。100 メートルぐらい離れたところに設置したが、子供向けにいろいろなアクティビティを用意し、非常に好評であった。
- 第1週目のファンゾーン来訪者が約1万人。それ以外にも住民や地元のビジネスの関係者にも大変喜んでもらえた。
- 一方で、地元の方々とのコミュニケーションを強化して、騒音問題、ごみ問題等、こういった場面ならではの予想外のトラブルに備え、問題発生時は迅速に対応するということを心がけた。
- ちなみに、ファンゾーン開催期間というのは、最初の第1次の段階(予選プールのことと思われる)であり、後半はもうファンゾーンは使わなかった。経費負担やプレッシャーも大きいため。

  その判断は地元イングランドが大敗した時点で行った。最終的にイングランドは予選プールで敗退したため、妥当な判断であった。

【一般来訪者の交通輸送の対応について】

＜対応におけるポイント＞
- 会場周りの安全性の確保
- ファンゾーンへのアクセス道路の確保
- 近隣住民のための不便・混乱を最低限に抑える工夫
- 公共交通機関の利用の勧め
- 街の内外での駐車場位置の確認
- 観戦客・ファンゾーン来場者向けに通行可能道路を事前告知・アナウンス徹底

- 重要課題の1つが一般来場者の足の確保。来場者がスタジアムとファンゾーンに簡単かつ安全に来れることが重要。
- スタジアム周辺道路は安全管理ということで、主要道路は閉鎖。
- 関係者・スタッフが沿道に並び安全を管理。
- 主要道路の閉鎖により、地元住民が不便を強いられるため、あらかじめ、コミュニケーションを図り、パンフレットのようなものも活用しながら前広に関係情報を通達していった。

- なお、住民へのフォロー支援策として好評であったのが住民用の通行許可証を発行し、必要であれば出入りができるように配慮したこと。
- 駐車場対策は、既存のものも含め、全てチェックして、それプラス大型バス用の駐車スペースや、プラスαの駐車スペースというものをグロスターの周辺の一帯に設定。
- 試合の時間帯によっては、全てが遠い駐車場だけではだめ。時間帯によってはある程度スタジアムの近くにも駐車スペースを整備するということが義務づけられていた。

【マーケティング・グロスターの存在について】

- マーケティング・グロスターとは、ファンゾーンのインフラ整備、観光宣伝パンフレット制作などのコンテンツ開発・整備やW杯に係る地域振興プログラムの管理運営も担ったグロスター市の民間事業主体。（市が活動予算を負担した由であり、純粋な民間企業というよりはNPO的なものと思料。）
- 取組の最大のヒット事例が、「スクランプティー」というノンオフィシャルのご当地キャラクター（マスコット）の開発。
- スクランプティーのマスコットの市内設置というアイディアは大成功した。なぜかというと、来場者の全てがラグビーに興味がある方ばかりではない。そこで、スクランプティーがどこにあるかというスクランプティー・マップみたいなものをつくって、それを見て街を歩いてもらう仕掛け＝スクランプティ・トレイルを作った。これにより、ラグビーファンでならずともグロスター市内を歩いて周遊して、お金を落としてもらえることにつながった。
- スクランプティーを市内のいろんなところに設置し、スクランプティを探すためのウォーキングルートを作ったところ、子供たちが何度も何度もそれを楽しんでいた。
- 地元のコミュニティー団体の参画というのは大変重要。いろんなアイデアや意見、心配があれば聞かせてほしいとして、小さなクレームや意見から大きなアイディア提案まで拾っていった。
- 具体的な手法としては、まずSNSメディアの活用。それから対面でのヒアリング機会の設置。さらにはW杯専用の質問・意見を寄せるためだけの専用メールアドレスの設置。
- その意見提案の最大の成功例が8万ポンドのアートカウンシルからの文化芸術関連事業への助成金の獲得である。

  具体的にはW杯出場 16 カ国をテーマにした、例えば日本週間とか、アメリカ週間といった週代わりの各国文化紹介プログラムを行った。

【情報発信の取組について】

- 地元住民への情報発信のほか、一般のファンや来場者用のインフォメーションも実施。
- 「シティライフ・マガジン」という雑誌を通し、住民向けの広報を実施（各世帯向けに配布）。ワールドカップ関連のいろいろな情報を入れて特集を組むなどして配布。
- 住民向けにパンフレットによる書面での情報提供もしていたが、スタジアム周辺の居住者、ファンゾーン周辺の居住者等、それぞれ伝えることの内容も変わってくるため、それぞれ必要な情報を別途配布するといった工夫もした。

【観光用ガイド情報について】

- 観光案内に関するガイド情報は、多言語のものを町として用意した。
- 街の観光情報ガイドや、移動に関するトラベルガイドのほか、マスコットであるスクランプティーを探して見て回る“スクランプティー・トレイル”用の道案内のマップなども作成した。

【ボランティアの整備・確保について】

- ビジター・エクスペリエンスというところから考えると、ボランティアの存在は大きい。パックのスタッフはにぎやかで明るい雰囲気を醸し出し、雰囲気の醸成にも効果的。
- ボランティアには2種類あり、パックと呼ばれるものは、ワールドカップリミテッドの組織委員会が整備するもの。一方、ローカルボランティアはグロスター市が募っていたボランティア。
- 文化プログラムにしても、ファンゾーンにしても、地元ボランティアに対する支援をしっかり行うこと。大会のレガシーとして残る存在としてもボランティアは重要。
- W杯期間中、ボランティアを活用してフェスティバル・オブ・ラグビーという地元で開催したイベントがあるが、地元企業、コミュニティー組織、市民たちがW杯に参画することができた。（このイベントを通すことによって様々な商業的な権利を脅かすことなく地元の人々が参加することが可能）
- このような活動を行いたいボランティア団体、コミュニティーグループには補助金を交付し、地元の活動がたくさん行われ、住民が実際にRWC開催に参画できるようにした。
- 普通ならW杯の試合を見に行くことができないようなボランティア団体用に1試合毎に各125 枚づつのチケットを用意・配布したところ、大好評だった。合計 60 のボランティア団体のスタッフが試合を観戦できることとなり団体の活動の促進にもつながったと考えている。
- 最終的にそのチケットをどんなふうに使って観戦いただくというのは各団体に任せ、ふだんから頑張っていらっしゃるスタッフの方々に対するお礼或いはインセンティブとして配布してもらった。

【グロスター市からの岩手県・釜石市への助言】

＜ポイント＞

(1) 地元住民やコミュニティ、企業・ビジネス関係者、一般ファンの希望をすり合わせること。
(2) 関係機関、住民等多様なパートナーとの連携を保つこと。
(3) 必要な仕事の量は、想像以上に大きくなること。
(4) 記録をしっかり残すことが必要。
(5) 準備する側が楽しむことを忘れないこと。

（気づいた事）経済効果としては、4,800 万ポンド（約 76 億円）と予想されたが、まだまだ伸びているということ。スクランプティー・トレイルのような、来訪者が周遊して回るような、ちょっとした工夫で交流人口の増加につながる可能性がある。

W杯後、グロスターというところが観光地として大変伸びてきているといわれており、観光客増という点からもRWC開催はメリットは大きい。

＜グロスター市の取組成功のキーワード＞

(1) 関係機関、住民等多様なパートナーとの連携を保ち、よく意見を聞くこと。
（⇒ 大会成功の鍵。いろいろなビジネスチャンスにつながっていった）

(2) 市民の誇り・矜持を醸成し、高めること。
（⇒ これこそが大会のレガシーであり、その意識の高まりが多くの来訪者の増加に今もなお繋がっている）

(3) まずは仕掛ける側が楽しむこと。
（⇒ 多くの課題・難題はあるだろうが、（一生に一度切りの大規模イベントと考え）準備する側が楽しまなければ釜石開催の魅力は来訪客にも伝わらない。）

■キングスホルム・スタジアムの視察
（説明者：グロスターラグビーチーム 商務部長マイク・ターナー氏）

- 本スタジアムは 125 年の歴史と伝統を持つ世界的にも有名なスタジアムである。
- 2009 年に大規模改修を行い、100％天然芝のピッチとしたところ。改修費は約 890 万ポンド（14.2 億円）。
- 維持費は年間約5万ポンド（800万円／年）

＜VIPラウンジの視察＞

- グロスターにとってのラグビーはヘリテージ（遺産）そのもの。学校用のプログラムにも活用されている。
- グロスターラグビーの歴史展示充実（1873～現代に至るまで約 140 年間にも及ぶ伝統チーム）
- チームユニフォームの色がチェリー＆ホワイトで、一見すると日本代表（JAPAN）の桜のジャージに似ているため、昨年度のW杯イングランド大会では、本スタジアムで開催された日本対スコットランドの試合で、日本チームを応援する声が非常に多かったといわれる。（グロスターの地元ファンが日本チームにシンパシーを感じ、たくさんの応援をくれた模様）
- オフシーズンにおけるスタジアムの活用策として、サーカス等の興行に使われたこともあった由。

＜質疑応答＞

Q1： 2015 イングランドW杯のグロスター市における対戦カードが決まったのはいつ頃か。
A： 3年前（2012 年）である。

Q2： スタジアムの運営スタッフ数は
A： 常勤スタッフ 20 名
公式戦等の試合時
- スチュワードと呼ばれる案内係 約200人（有給とのこと。アルバイト的な存在と思料）
- 運営補助スタッフ 60 人（ボランティア）

（この他に警備やセキュリティ対応として、警察や民間警備会社等の対応あり）

Q3： イングランドW杯において、グロスターでの大会運営（試合やファンゾーン運営等）にあたって、イベント会社なども参画していたのか。
A： イベント会社も参画している。

Q4： ファンゾーンの開催日はどのような日を選定したのか。
A： 週末（土・日）、キングスホルム・スタジアムのマッチデイ（試合があった日）、イギリス（イングランド、ウェールズ、スコットランド）関係のマッチデイ。

Q5： ファンゾーンの利用者数は、グロスター市民が多いのか。それとも外国人等ビジターの利用が多いのか。
A： 統計は取っていないが、会場から約 40km 四方からの来場者が多いとされており、基本的にはグロスターラグビーチームのファンが多かったように思う。但し、アルゼンチン戦の際は、アルゼンチンファンが非常に多かった。

Q6： グロスター市内の宿泊施設の収容人数は？
A： 市内で約1，200室、隣接するチェルトナム市も含めると2，500室

Q7： キングスホルム・スタジアムの収容人数は約16，000人であり、釜石が建設を予定している復興スタジアムと同規模のスタジアムであるが、W杯の際、16，000人／日をどのようにオペレーションしたのか（宿泊等）。
A： さきほど説明したとおり、グロスター自体は宿泊施設も少ないため、実際にはロンドンやカーディフなどからツアーバスや車等、日帰りで来た客も多く、宿泊問題はあまり深刻な問題にはならなかった。
（キャンプカーサイトや民泊も活用された模様である。）

Q8： ゲーム以外のスタジアムの活用方法如何。
A： コンサートを年に2回程度行っている。

Q9： 練習用のサブグラウンドはあるか。
A： 同じ敷地にはなく、5kmほど離れたところにある。

Q10： 2019年にイギリスから日本にW杯を観戦に来るファンは、平泉の中尊寺や、釜石の橋野鉄鉱山跡地などの日本の世界遺産の見学に関心はあると思うか。
A： 関心を持っている人が多いと思う。（欧州人は一般的にアジア文化には関心が高い）

■グロスター市長夫妻、ジム副市長、アダム・ボールディング氏との夕食懇談にて

- 夕食時に、今回の岩手県議会英国視察団を歓迎し、ヒアリング調査にご協力くださったグロスター市長ご夫妻、ジム・ビーレイ副市長、アダム・ボールディング氏を招き、夕食懇談を行った。
- その際、元々は音楽家であるという市長ご夫妻が、岩手県議会英国視察団のために日本国歌「君が代」を日本語で斉唱してくださるというまさしくスペシャル・プレゼントの演出を頂戴し、一行は大いに感銘を受けた。返礼として伊藤団長が南部牛追い唄を披露。

＜小野共事務局長　御礼挨拶＞

- 今回の英国視察で気づいた事はラグビーの街の「プライドと伝統」ということであった。是非、2019 年には市長ご夫妻はじめ、グロスターでお世話になった皆様に釜石で行われるW杯を見に来ていただきたい。

（後日談）

英国視察帰国から2週間後、視察におけるグロスター市との調整を頼んだ代理店から連絡あり。岩手県内の自治体、例えば釜石市とグロスター市との姉妹都市締結の打診だった。詳細を調査中であるが、3年後の岩手釜石大会を開催する上で英国大会での開催地との姉妹都市締結若しくは連携は今後の大会準備を考える上でかなり有利になるものと分析出来る。我々岩手県訪英団の思いが確実に伝わっていたことの表れ、と素直に嬉しく思う。

（ヒアリング調査の様子）

（グロスター市のご当地ラグビーマスコット（スクランプティ）の置物）

DOWNTON delivers

THIS IS KINGSHOLM

（選手ロッカールーム）

MITSUBISHI MOTORS
PROUD MAIN PARTNER
11
12
13
14
15

SHOGUN BAR

4 チェルトナム・ラグビークラブ

調査先	チェルトナム・ラグビークラブ	平成 28 年5月7日(土) 10:00～12:00

調査内容:W杯 2015 大会時の事前キャンプ地の取組等について

次　第(進行:小野共事務局長)

(名刺交換)

1　開会

2　団長あいさつ

3　視察団自己紹介

4　先方あいさつ

5　クラブ側ブリーフィング

6　質疑応答

7　閉会(調査対応御礼:伊藤団長)

相手方

チェルトナム・ラグビークラブ　スティーブ・ラトクリフ会長

・ チェルトナムラグビークラブ視察の背景

RWCでは参加チームが現地で宿泊及びトレーニングする為のキャンプ地が準備される。県内では複数の自治体が公認キャンプ地選任に興味を持ち、北上市など既に具体的な立候補の準備に入った自治体もある。

■W杯 2015 大会時の事前キャンプ地の取組等に係るヒアリング調査

・ RWC2015英国大会におけるキャンプ地(team bases)の概要

大会に参加する20チームの為にイングランド、ウエールズに設けられた合宿所のこと。合宿所の選別は2013年春より公募により行われ、国内約100の施設から応募があり英国RWC組織委員会の現地視察を経て2014年8月に41箇所が選ばれた。

合宿所は宿泊施設、屋外、屋内トレーニング施設、ジム設備、プールを備えた施設であることが条件とされ、開催地に渡ってからの選手のトレーニング、宿泊場所としての役割を担った。

チェルトナム市の市営施設である「プリンス・オブ・ウェールズ　スタジアム」の視察調査を実施。

＜ヒアリング内容要約＞

➢ 大会期間中は、アルゼンチンとトンガの2つの代表チームが同施設を使用。

公式キャンプ地のアロケーション数(割当て)は3チームが上限。実は日本チームもキャンプを予定していたが、現地でのスケジュール変更等により見送りとなった。

- 2015W杯の公認事前キャンプ地決定後、組織委員会の主導により、セキュリティ強化として新たにフェンスを設置。トレーニングの様子を外部から見えないようにするため。したがって、キャンプ地施設の近くに高層マンションがあるような場合は恐らくNGであり選出される見込みは低い。（※トレーニング内容を盗み見られることがないように予防しなければならないため。
- RWC以外のロゴや広告などは全て掲出NGであり、大会期間中、覆い等で隠さなければならない。
- 公式スポンサーとの兼ね合いから、トレーニング用グッズなどチーム用品は全て組織委員会が支給。
- 公式事前キャンプ前の4週間は当該施設の一切の使用は組織委員会から禁止された。

＜スティーブ・ラトクリフ会長からの激励＞

調査の終了にあたって、スティーブ会長からは『今回の岩手県議会の視察団の訪問を大変嬉しく光栄に思う。我々の経験が岩手県釜石市の開催にとって、有益なものとなり、役に立てれば幸い。岩手県内から公認キャンプ地が選ばれるための活動の健闘を祈る。何か聞きたいことがあれば、資料や助言をメールで送るので遠慮なく相談されたい。』との言葉を頂戴したところ。会長の温かい激励の言葉に、視察団一行は、釜石開催成功に向けた思いを新たにしたところ。

＜スティーブ会長による説明詳細＞

【クラブの概要】

- 当クラブは創立から 127 年という伝統あるクラブである（1889 年創立）。1981 年に現在地に移転。（移転の背景は、州（県）の住宅開発のために中心部から移転せざるを得なくなったというもの）

- ピッチは2つ所有しているが、クラブ自体がどんどん成長して大きくなってきているため、さらに来シーズンから奥側にある別のサッカーピッチをメーンピッチとして追加する見込み。（これもワールドカップの開催がきっかけとなった変革である）

  男子3チーム、シニアチーム1、女子チーム2、ジュニアチーム（ジュニアも 40 年の歴史有り）

【公認キャンプ地の決定経緯】

- 2010 年にイングランドでの開催が確定した後、組織委員会から全ラグビークラブにキャンプ地の必要要件に関する通知があった。（全クラブに配布して、各クラブで基準を満たすか否かの検討をさせ、キャンプ地として立候補するか否かを判断するための事前情報を与えたもの）

- この必要要件のところを十分に検討し、近郊のグロスター・キングスホルムで4試合があるという情報は持っていたため、もし必要要件を満たし、キャンプ箇所として立候補するのであれば招致に成功する可能性は高いのではないかという判断をした。

＜特に重要な要件＞
- 宿泊施設（四つ星か五つ星）
- 移動時間最大 50 分まで
- ラグビー用ピッチがあること
- 屋内体育館を有すること
- 近隣にプールがあること
- 高水準のウェイトトレーニングができるジム設備があること。

➢ このうち、重要な条件の1つが、チームの移動時間であり、最大 50 分までという条件に対して当クラブはわずか 20 分であり、他と比べかなり有利であると考えた。

➢ 他にも、例えば理学療法士、PTが使えるスペースがあるのか、選手用のミーティングルームがあるのか、それからビデオ分析ができるような部屋は提供できるのか、そしてスタッフの方々が使えるミーティング室があるのか等、多数の要件が示されていた。

➢ ホテルの確保には苦労した。最寄にクオリティーの高いホテルがあったものの、我々はホテルを推薦するのみにとどまり、事前にホテル側とネゴ（宿泊単価の値下げ交渉）をすることは許されなかったため、結果的にホテルが組織委員会と値段交渉に応じることがなく、やむなく、グレードは落ちるが、ラグビーチームの受入れに慣れている市内の別のホテルに宿泊先を新たに推薦して解決した。

➢ キャンプ地には、一番最初のチームの受入時にはウェルカムセレモニーを行うという慣例（？）があり、その対応も求められる。（詳細不明）

➢ キャンプ地誘致には、行政の協力も必要と認識。インフラ施設・設備の整備のため、チェルトナムの役所のほうと連携、協働した。

➢ 最終的に国内で合計 81 カ所が立候補。
その後、3ヶ月程度の間に、2回程度の大会組織委員会の担当者による施設・設備の現地調査（チェック）を受け、最終キャンプ候補地が半分 49 カ所まで絞られた。

➢ 組織委員会では、この 49 の立候補地を全部リスト化し、施設紹介の報告書をまとめて、ワールドカップに出場する全チームに送付。

➢ その後、各チームがレポートの内容を検討し、全部で7カ国の代表チームが視察にやってきた。
うち1カ国はフランスだったが、残念ながらグロスターでの試合がないことが判明したため、結局キャンプは見送りとなった。それ以外の6チームは全部組織委に対してグロスターでのキャンプを申請した。

➢ 複数のチームが同じところを希望した場合のルールは、世界ランキングの上位チームに選択の優先権があり、上位チームから希望のところをとれることになっている。

【実際のキャンプ地使用状況】

- 最終的に3チームが決まり、一番最初はトンガ代表が 11 日間滞在したため、当方でウェルカムセレモニーを実施した。トンガチームは比較的長く滞在したため、グラウンドもプールも使用した。（屋内体育館は天気がよかったため不使用）

- トンガチームの後は、アルゼンチンが使用した。アルゼンチンのチームは既に初戦は終えていたため、キングスホルムでの試合の2日前に到着。2日前のため、こちらでトレーニングをするという段階ではなかった。（リザーブ選手だけがウエイトトレーニング用の設備を使用。）

  実は3チーム目は日本だったが、直前の南アフリカ戦の影響によりスケジュール変更があり実際の使用に至らず。

【組織委員会とのキャンプ地間の契約内容の詳細について】

- 最終候補地リストに掲載された各キャンプ地は組織委員会との間で1回目の契約を締結。

  契約内容は、恐らく大会毎にホスト国の事情も反映し、微妙に異なっていると思われる。また、W杯は大会を経るごとに、開催に係る基準等のハードルが少しずつ高くなってきているといわれている。

  例えば、当施設のラグビーピッチは実はあまり良いレベルではなかったが、組織委員会が視察に来た際、水準に満たないと判断し、芝のスペシャリストチームを派遣して、組織委員会の負担で相当の投資をして芝のアップグレードを行った。（組織委負担による個別の設備改修は例外的な扱いだが、組織委が必要と判断すればそういう支援がありうるということ。）

  ウエイト・トレーニング施設も同様で、やはり組織委員会がグラウンドの横に仮設の条件を満たす水準のジムを自らつくって、それで基準をクリアした。

- 実情を言えば、イングランド全体の水準でみれば、当クラブの施設設備のレベルは低い方であったと思うが、スコットランドやジョージア等もうちを希望したが叶わなかった。これだけ多くの有力チームが当クラブでのキャンプを希望した背景には、要はいろいろなリクエストに柔軟に対応しますよという姿勢が評価されたからだと考えている。

  ご覧のとおり、ここの施設は1カ所に全ての施設が集中しているわけではなく、バス移動等が必要だが、視察に来たチームはそういった不便を気にしていなかった。

  大切なのは、耳をちゃんと傾けて、向こうが何を希望しているのかというところに柔軟にできる限り対応するという姿勢である。

  当キャンプ地に魅力を感じてもらえた最大の要因はなんといっても試合会場（キングスホルムスタジアム）に近いということ。立地上のアドバンテージがあった。

- キャンプ地として選ばれた後には、組織委員会が外側のフェンスを全部チェックし、フェンスにカバーを覆い、外部から見えないように、あるいはセキュリティ面で強化（補強用フェンスを設置する等）した。

- キャンプ場として使用している期間中は、ワールドカップ以外のロゴ等が掲出されることは一切禁止。

- 契約中では、キャンプ場の内部では各選手がスポンサー企業名等が入ったシャツを着ることは許されていても、キャンプ地から一歩外に出たらスポンサー名などが入っているようなものの着用はNGで、組織委が指定したW杯用のものしか着用できないことになっていた。

- したがって、トレーニング用ユニフォームや、タックルバックとかスクラムマシン、タックルシールド等の一切を（組織委を通じて）ラグビー協会から支給されるため、チームが到着する前に全部搬入されるので、そういった用具やウェアの保管場所を確保することが求められる。

- 用品・用具の支給は、あくまでもそのチームに支給されるもの。チームが移動すれば、機材等含めて各種の支給品もチームと一緒に移動する。新しいチームが来ると新しい同じものが全部こちらに送られてくるため、保管用のスペースが不可欠。

- 施設のセキュリティのための警備員は組織委員会の負担・責任において派遣される。
  出入り口にはガードマンが待機し、人の出入りをチェックする。この設備に関しては、我々ラッキーだったのが、フェンスが周りに全部あるので、それをつくる必要はなかったが、例えば学校設備を使うといった場合には組織委が全部フェンスを設置し、そこに警備員も手配する由であった。

- 是非とも注意してほしいと思われる点は、キャンプとして使用される前の4週間は施設の使用禁止であるということ。もちろんキャンプ場として使われるその期間も他団体・個人等の使用禁止であり、完全な貸切状態が必要となる。

- 組織委員会と最初のキャンプ地契約を交わした時点では実際にどのチームがキャンプするかは未定。
  最終的にどのチームが配置されるか、幾つのチームが配置されるかというのは、クラブ側では一切決められず、先方チームの決定に委ねるしかない。
  したがって、契約は交わしたにもかかわらず、ゼロということも可能性もあるということ。

【その他設備に求められたスペック等に関する諸要件】

- プールに関しては、比較的決め事は緩やかであり、6レーン中の4レーンがチーム専用として使用したものの、残り2レーンについては一般利用者に通常どおり開放できた。因みにプールの長さは最低でも 25 メートルは必要。

- 屋内体育館は天候が良かったため、実際に使われることはなかったが、要件として必須の施設であった。

- 幾つかの条件が課されており、1つ目は、最低でもバスケットボールのコート一面分の広さがとれること。2つ目は天井の高さが、ラインアウトの練習に支障がない程度の高さがあること。（具体的に何メートルという基準は示されず）。3つ目はスプリングタイプのフロア仕様であるということ。

- ウエイト・トレーニング用ジムは、近隣の民間施設を借りて提供した。トンガ、アルゼンチンのいずれの選手も利用。
  トレーニング設備として多数の条件（70 キロダンベルがあること。オリンピック重量挙げ用のプラットフォーム6カ所を有すること等）を示されており、本施設は概ね満たしていたが、仮に満たしていない場合でも組織委員会が自ら設備補助という形で対応するものと思われる。

【事前キャンプ地を行ったチームと地元の交流機会について】

- トンガは初戦を控えた直前トレーニングを予定していたため、残念ながら希望していた地元の子供たちによる特別見学のプログラムは実現しなかったが、その代わりに、試合後にトンガ選手団が子供たちのために、少しの時間ではあったがラグビークリニックを行ってくれて交流機会を持つことができた。

【キャンプ地決定後のラグビー協会等の補助、W杯開催のレガシー】

- 今回キャンプ地決定後に、新たにグラウンド整備する際には、イングランド・ラグビー協会から補助金を得たほか、無利子ローン（10 年）を組むこともできた。トレーニング用の照明整備に伴う補助金も活用。

- W杯開催のレガシー効果としては、イングランドラグビー協会ではかなりの収益が出ており、国内ラグビーチームへの還元策の一つとして、全天候型3Gピッチの整備を今後国内に 100 箇所で行う方針を示しており当クラブもこれに応募中。

【公認事前キャンプ地の誘致による経済効果等について】

- 経済効果は一定程度あると思うが、具体の数字を明確に説明することはできない。
  内外の多くのラグビーファンや、各チームのサポーターが大勢チェルトナムに泊まって、試合を見に行くだけでなく、チェルトナムの町で過ごしてくれたので、間違いなく経済効果はあったと思われるが、具体的に試算しているわけではない。

- どこのチームがキャンプ場を使うのかということによっても大きく変わる。いわゆる『トップボーイ』と我々が呼ぶニュージーランド、オーストラリア、イングランドなどの人気チームのほか、地元あるいは近場のフランスあたりのチームが合宿に来れば、応援に来るファンの数が全然違う。トンガから来られるサポーターの数とは比べものにならない。アルゼンチンも遠隔地のチームであり、キャンプ地の見学にきたサポーターはそれほど多くなかった。

（気づいた事）

チェルトナム市のいたる所に「proud for a team bases」（キャンプ地に選ばれたことに誇りを持て）と書かれた看板が見受けられた。スティーブ会長に尋ねたところ、「キャンプ地に選ばれたことは我々市民の誇りだ」との事。試合会場に選ばれた岩手釜石は我々が思うより誇るべきことなのだと実感した。

（ヒアリング調査の様子）

（㊦必須の施設要件であるウェイトトレーニング施設。近場の倉庫内に設けられた民間施設。）

５ キングスホルム・スタジアム

調査先	グラウンド及び公式戦視察（グロスター市キングスホルムスタジアム）	平成 28 年5月７日（土） 14:30～17:30
調査内容：ラグビー専用競技場における公式戦の現地視察（於キングスホルム・スタジアム） （観客動向調査、RWC2019 日本大会に関するニーズ、認知度等アンケート調査）		

・ キングスホルムスタジアムについて
　1981年に建設され街の中心からも駅からも徒歩15分程度の場所に位置する。５日に視察したトィッケナムスタジアムに移る前まではイングランド代表チームのホームグラウンド。グロスターが伝統あるラグビーの街であるのはこれ故である。ホームチームのグロスターラグビーはプレミアリーグに所属する古豪チーム。

・ゲーム（プレミアシップ公式戦）：グロスター　対　ノーサンプトンセインツ

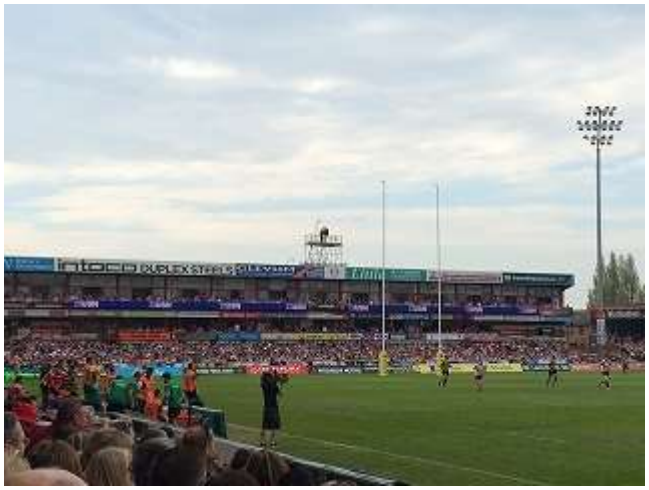
・ RWC2019日本大会のアンケートについて
　別紙のアンケート項目を、同行した政策地域部と検討のうえ用意作成し、キングスホルムスタジアムで公式戦の現地観戦客を対象に事前のアポイントなしで、英語通訳の坂本氏の協力を得て敢行した。

■ 実施者：佐々木宣和議員及び政策地域部職員（2班に分かれ実施）

■ 獲得サンプル数：21

■ 調査結果：　別紙のとおり。

（アンケート調査の様子）



（ほぼ満席（16,500 人）のスタジアム。土曜日の午後、老若男女の観戦客でぎっしりと埋まる。両チームのファンが混在して応援する。）

■ アンケート調査所感（佐々木宣和議員及び政策地域部職員）

事前に想像した以上に会場は混雑しており（16,000 人収容のスタジアムほぼ満席）、21 サンプルの獲得とはいえ精一杯であったように思うが、見知らぬアジア人による突然のアンケート調査依頼にも拘らず、多くの地元ファンは嫌がるどころか、日本から一自治体の議員と職員がわざわざグロスターまで調査に来たことを知り、非常に好意的に受け止めてくれており、フレンドリーな応対をしてくれたことに率直に感動を覚えた。

アンケート回答者の中に桜のジャージー（日本代表ジャージー）を着たファンがおり、理由を聞いたところ、昨年のイングランド大会での日本代表の活躍を見て、日本ファンになった由であった。

グロスターラグビーチームのジャージーと良く似ていると言われており、日本チームの活躍とも相俟って、昨年度のスコットランド戦は同じ英国のチームとの対戦であったにもかかわらず、日本のホームでの試合のようだったと形容されるほど、日本への声援の方が大きかったそうで、グロスターはイギリスの中でも非常に親日的な町ということが言えるのかもしれない。

（気づいた事）

試合開始早々、グロスターが相手陣に攻め込んだ際、スタジアム前列に座っていて我々視察団が思わず立ち上がってしまった。その時、後列に座る地元の観客から「Do not stand up！」と叫ばれた。

視察団のほとんどの議員は海外でのラグビー観戦は初めてであり、「郷に入っては郷に従え」とおとなしく見始めた。周りの観客を観察すると皆、おとなしく観戦しており、これがラグビーの観戦の仕方なのか、と妙に納得した。日本でのスポーツ観戦、特に野球、サッカー、ラグビーなどでは激しくヤジを飛ばしたり、興奮して立ち上がる観客も多いが、文化の違いをまざまざと見せ付けられた。覚えておかなくてはいけないマナーだと感じた。

Ⅴ 所感と提言

1 視察団として

今回の調査結果が、本県の準備関係者の取組みの一助となることを願うものであるが、調査結果を踏まえ、より円滑かつ効果的な取組みの推進を期待し、次のとおり提言する。

（各団員の所感及び提言は2に記載のとおり）

【提言1】

岩手釜石大会の意義は、被災地の復興の姿を全世界に示すことであり、当然復興と絡めた大会になる。RWC2019 日本大会における運営と企画に関するルールが、今後RWCL（ワールドカップの管理運営組織）により明らかにされていくものと思われるが、被災地岩手釜石大会の運営について、どの程度現地で自由に企画運営できるのかが今後の懸念事項である。しかし、キングスホルム・スタジアムでのアンケート結果に示されたWi-Fi、街中における英語による様々な表記、標識など外国人への最低限の対応準備はすること。

【提言2】

機運醸成を図るため、地元釜石市民、県民とのコミュニケーションを継続的に取ることが必要であり、さらには、音楽イベント、演劇等多様な分野が一体となった地域をあげての大会PRや集客に繋がる活動を実施すべきである。

また、住民が大会の運営に参画することで、大会実施後には、住民の地元に対する誇りがより醸成され、ひいては観光振興や産業振興等によるふるさと創生に繋がっていくことが期待されることから、ボランティアへの支援など、住民が大会の運営に参画しやすい環境づくりに努められたい。

【提言3】

岩手県、釜石市双方にとっての開催後の最大の懸案事項は、大会終了後のスタジアムの維持管理費。ワールドカップ終了後を見据え、地元住民、企業へ配慮しつつ、ニーズを理解して準備すべきである。トゥイッケナム・スタジアムでは、ラグビーゲーム以外の収入源として、法人、団体向けの観覧室及び会議室が重要な機能を担っていた。スタジアムの設計にあたっては、地元企業、事業者、団体などの利活用、その他様々な活用方法を考慮して臨むべき。

また、ヨーロッパでは、社会的にハンディキャップト（障がい者）の方々に対する配慮が厚いことから、スタジアムの設計にあたっては、車椅子席などの席数、配置も十分に考慮されたい。

【提言4】

グロスターシャー州（県）の大きな役割の1つであったように、街の基本的な社会資本として大量輸送手段であるJR山田線、三陸鉄道などの鉄道、東北横断自動車道、三陸縦貫自動車道などの高速交通網の整備について、大会開催に間に合うよう、しっかりと取り組まれたい。併せて、観客及び住民の生命の盾となる鵜住居川の水門、防潮堤の完成も国と県がしっかりと連携し取り組まれたい。

【提言5】

平成 28 年6月には神奈川県議会から岩手県議会復興スクラム議員連盟に対し、開催地の議員連盟同士の連携を図る取組みについて打診があったところ。今後連携を進めていく予定としている。グロスター市のアダム氏からも提言を頂いたように、開催地自治体間の連携も準備しておくべき。

【提言6】

グロスター市では、大会期間中に「スクランプティ・トレイル」という、来訪者に地元を周遊していただく取組みを実施し、子どもやラグビーファンでない方にも楽しんでもらい、結果として交流人口の増加にもつながったとのことである。比較的ラグビーに関心のない観光客への“掴み”としてグロスター市のスクランプティのようなローカルキャラクターの創造も集客の一つの手段である。また、来訪者に地元を周遊していただくことは、被災地が復興する姿の発信にも効果的と考えられることから、このような取組みについて検討されたい。

【提言7】

チェルトナム・ラグビークラブが公認キャンプ地に選定された最大の要因は、「各国代表チームの様々なリクエストに柔軟に対応します」という姿勢であったと同クラブの会長は認識されていた。キャンプ地に立候補する県内自治体は、これを必ず肝に銘じて取り組まれたい。

【提言8】

仕掛ける側（企画運営する側）がまず楽しむことが大切である。そうでなければ、岩手釜石大会の魅力が釜石市民、県民、来訪者には伝わらない。長丁場の準備になるので集中力を切らさず、しぶとくしたたかに取り組まれたい。

２ 各団員から

調査団副団長　飯澤　匡

今回の英国視察目的はただ一つ。ラグビーワールドカップ 2019 釜石大会を成功させるためである。

RWC2015 イングランド大会を成功させた英国は、我が国同様四方を海に囲まれた地理的条件にあり、よって国民気質も歴史・文化を尊重する気風や新しいものを社会に比較的受け入れやすい点など相似している点が多い。過去の開催国の中でも英国は釜石大会開催成功の最も参考にする点が多いと以前から感じていた。

視察から得た課題を一言で言い表すならば、「レガシーの創出」であろう。

大会に向けた準備、成功から得られる自信。携わった人たちがその後の地域をつくる、地域資源を活かす貴重な人材になっていく。誇りと自信が人をもう一歩前に出していく。この財産は特に被災地の再建にも大いに寄与すると確信した。そのためには我が国の場合世界レベルの大会は行政主導で行ってきた成功事例をあえて見直し、民間活力を駆使した市民レベルで運営が可能になるような新たな展開を必要とすることも強く感じた。特に RWC の事務局と直接交渉出来る人材育成と配置は急務である。

釜石市で建設が予定されている容量的に同レベルのスタジアムを有するグロスター市と、岩手県ラグビー協会役員に続いて我々議員が友好の成果を得られたことは今後の展開に大いに役に立つことを確信した。特に大会運営面では参考になる事例を確認できたと思う。

チェルトナム市の公認キャンプ地は本県の自治体でも十分に実現可能であることを確認できた。国際大会キャンプ地ということで身構える必要はない。自分たちで出来ることを確実に足固めすれば、県内の複数自治体がキャンプ地として適合する。但し、必要とされるホテル星4以上レベルのアコモデーションが確保できるのか要検討事項である。

ラグビーに対する愛と情熱は、ラグビー発祥の地である英国にも劣らないものを岩手県や釜石市でも持っている。弾力的な組織形成と人材育成と配置が成功の大きな鍵となろう。

調査団員　樋下　正信

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の釜石市開催の成功のための一助となればという思いで、今回の「ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会開催に係る取組及び成果等に関する調査」に参加させていただきました。

羽田空港を午前 11 時 20 分に離陸し、空路を所要時間 12 時間 30 分、午後3時 50 分にロンドン・ヒースロー空港に着陸しました。時差ぼけを抱えたまま町はずれのホテルにチェックインして夕食。ロンドンの中心街のレストランに行き、英国名物「ローストビーフ」を食べました。ボリューム満点でしたがとても固く、切るのもやっとでした。そしてイギリス料理の超定番、この後、英国滞在中、品は同じですが、手を変え、形を変え、食感も変えながらどの食事にも必ずついてくるのがジャガイモ料理でした。小さいころを思い出し、懐かしく感じる一方で何と日本の料理は素晴らしいものかと実感した英国、ロンドンの第一印象でした。

2日目以降は公式日程がびっしり詰まっておりました。自治体国際化協会（クレア）ロンドン事務所では英国の国の在り方。英国はユニオンジャックに象徴されるようにイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる連合王国であること。その後のEU離脱投票で色々な形で英国の国の形が取りざたされたとおりでした。そこではラグビーワールドカップ開催による英国への経済効果、日本開催、釜石市での試合の意義などについて、色々と意見を頂戴しました。

ラグビー発祥の地イングランドにおける聖地と称されるトゥイッケナム・スタジアム。規模の大きさもさることながら、イングランドの人々のラグビーに対する情熱、愛情というものを衝撃的に感じさせられ、風土、伝統の違いを痛感させられました。スタジアムは独立採算で相当の収益を出しているが、その 90％はイングランドラグビーの強化育成のためラグビー協会に寄付されているとのことでした。

約 900 年前に創られたグロスター市。人口約 12 万 5,600 人。もちろん釜石市よりは大きいわけですが、125 年の伝統を持つキングスホルム・スタジアムの収容規模1万 6,500 人と釜石市が建設予定のスタジアムと同規模ということもありラグビーワールドカップ開催地では一番釜石市に条件が似ている都市です。そこで、開催の意義、影響、開催のために重要なこと等様々な角度から意見を頂戴してきました。日本代表の試合が行われたのもここグロスターでした。若い市長ご夫妻をはじめグロスター市の皆さんの歓待に心から感謝しております。

報告書に掲載されているチェルトナム・ラグビークラブ。クラブの歴史は 127 年、ジュニアも含めて7チームが所属しているということで、ラグビーの伝統の違い、英国国民のラグビーに対する思いの強さを改めて実感しました。そうした文化伝統を超えて、どのようなラグビーワールドカップを開催するのか、どのような準備をして各国チーム、海外からの来場者を迎えたらよいのか、県民一丸となって、世界に岩手を、三陸釜石を広く知ってもらえる恰好の機会となるよう、県民挙げて準備をしていかなければと改めて感じさせられた一連の視察でありました。

調査団員　軽石　義則

私は、1976 年4月の高校入学から始めたラグビーに、ここまでかかわることが出来るとは思っていませんでした。楕円の球との出会いから 40 年の歳月が積み重なり、苦しいこと辛いこと楽しいこと嬉しいことを思い出しながら、ラグビー発祥の地である英国に県議会議員として調査団の一員で参加することが出来ました。

このことは、県民の皆様のご理解とこれまで支えてくれた多くの仲間や関係者の皆様のおかげであり、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございます。そして何よりも、調査で得た情報を岩手県の将来にわたる取り組みに繋いでいく自覚を忘れてはいけないと考えております。

2011 年3月 11 日東日本大震災津波が発災し、本県は未曽有の大災害により多くの尊い犠牲を払うとともに甚大な被害を受けました。絶望に近い状況のなかにあって、国内はもとより海外からのご支援により復旧から復興へと県民全体が立ち上がったときにいただいた議席だからこそ、将来の世代に素晴らしい岩手を創っていく大事な役割であると認識し議員活動に取り組んでまいりました。そのことを踏まえて、初当選直後 2011 年 10 月の定例会一般質問に初登壇した際に、岩手県の復興計画が仕上がる予定の年である 2019 年 RWC 日本大会を岩手県釜石市で開催し、復興の姿を全世界に発信することにより、復興を成し遂げたうえで持続する活力としていくべきとの発言をいたしました。当時の答弁は先の見通しがつかない現状であり、まさに実現することは夢のような話でありました。以降、復興スクラム議員連盟が立ち上がり、県民の機運も醸成されたうえで取り巻く環境の変化により、釜石市や関係者の熱意が伝わり被災地唯一の開催地に決定されました。それらの経過からも今回の現地調査は非常に大きな意義を持ち、「百聞は一見に如かず」の諺が示すものでありました。

発祥の地英国は、やはり国全体でラグビーを楽しんでいることを実感いたしました。公園は広く全面に芝生が敷かれ、ラグビーのゴールポストが立っている光景が多くみられました。そのことからも市民に親しまれているスポーツであることが見て取れますし、歴史と伝統がしっかり支えられていることも実感いたしました。各視察先では、準備から実行することで得られた経験は参考になることが多くありました。そのうえで、英国の成り立ちや歴史による文化の違いはあるものの、目指すべき目的は同じであることを感じました。それは、RWC を契機として英国の魅力や親しみを世界に発信することにより、交流人口の再発掘をして産業振興にまでつなげていく取り組みではなかったかと思いました。よって、開催地だけの盛り上がりではなく現在進めている希望郷いわて国体・大会においても 2019RWC を意識した各種行事の開催と宣伝を強化することであり、その経験を活かして岩手の良さが伝わるおもてなしと全県民が一緒に楽しみながら大会運営できるサポート体制の整備などに工夫をしていくことも大事であります。例えば、気持ちを伝える対応としてグロスター市では日本チームの歓迎のため、市長を先頭に市民が日本語で国歌を覚えて歌うことに取り組んだとのことです。

ラグビーという競技も専用スタジアムもラグビークラブもファンの皆様やラクビー協会などすべてにおいて素晴らしい伝統のうえに成り立っている英国大会でしたが、あの時の日本チームが歴史的勝利を挙げたように、オール岩手によるスクラムで諦めることなく粘り強く取り組むことで、記憶に残る岩手・釜石大会とすることが出来ると考えて行動していく所存です。

調査団員　名須川　晋

ラグビー発祥の地、イングランドで昨年開催されたラグビーワールドカップ2015における日本代表チームの目覚ましい活躍は未だ記憶に新しい。

日本のラグビーは、かつて日本選手権で国立競技場を満員にしてきた往時の熱気と人々の関心を再び取り戻したかのようであり、この余勢を駆って岩手のラグビー発展へと繋げていきたい。強豪南アフリカ共和国に、最後のワンプレーで逆転勝利をもぎ取ったゲームの歓喜が、釜石で再現される場面を見てみたい。

ラグビーの聖地と称されるトゥイッケナム・スタジアムを視察した際、イングランドラグビー協会が強固な体制を確立していることに瞠目した。スタジアム入場料やスポンサー料等による売上は最終的に協会の収益として、イングランド各地の下部チームの施設整備や選手強化費として還元されているとのことであった。ボランティアガイドを務めていただいたマーチン・イーレイ氏が所属するチームにも最近、配分があり、有効に活用されたとのことで、ラグビーの裾野を広げる取り組みの在り様は注目に値する。

公認チームキャンプ地に選定されたチェルトナム市では、「プリンス オブ ウエールズ スタジアム」、道路を挟んで真向かいにあるプールを併設した屋内トレーニング施設、そして近隣のトレーニングジムが印象深い。キャンプ地も最新の近代的な施設であるべきでそのためには大きな投資が必要であるという漠然としたイメージを持ってしまいがちだが、実際に現地を視察してみるとスタジアム、プールとも決して豪華ではない、既存の“まち”のスポーツセンターである。トレーニングジムにいたっては空き工場を改装した民間の運営で、造りも大変簡素なものであった。

チェルトナムでは、RWC組織委員会の負担によって芝のアップグレードや仮設トレーニングジムの整備が行われたと伺った。公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会が提示する公認チームキャンプ地ガイドラインにおける施設基準は一見すれば確かに高く、要求も多岐に渡るが、近隣自治体で機能を補完することを模索しつつ、まずは提供できる施設の実情を率直に組織委員会に示すことで、委員会の柔軟な対応も期待できるのではないか。その試みもないまま自らの判断で誘致を端から断念してしまうのであれば、岩手にキャンプ地は絶対に来ない。仙台しか選ばれない。スポーツツーリズムを振興し、スポーツ都市を標榜する自治体は、まずは果敢に手を挙げるべきと強調したい。

トゥイッケナムとグロスター市のキングスホルム・スタジアム、そしてチェルトナム・ ラグビークラブを巡りいずれにも感じたのは、ラグビー文化が国土に染み込み、発祥地としての伝統と世界のラグビーの牽引役たらんとするプライド、まさにそうした唯一無二の存在としてのアイデンティティーが十二分に映し出されていたことであった。釜石に目を転じれば新日鉄釜石は日本選手権7連覇を果たした伝説の名門チームであり、紛れもなく地域の大きな誇りである。鵜住居復興スタジアム建設にあたっては、震災からの復興の象徴としてはもちろんのこと、かつて日本のラグビー界を率いて名声を轟かせたプライドと日本のラグビーの聖地にふさわしいアイデンティティーが感じられる展示施設を必ず整備してほしい。魂の籠らないただただ無機質な場所にしてほしくはない、

この視察において特にも印象に残り、考えさせられる場面が調査最終日にあった。キングスホルム・スタジアムにおいてプレミアムシップ公式戦、グロスターラグビー対ノーサンプトンセインツを観戦した際の事。我々が陣取る逆のサイドでのプレーが見えにくかったため、思わず腰を上げてしまった。その際、近くに座る観客から「Don’t stand up！」と大声での指摘があった。瞬間、周りを見渡すと立ち上がった人も若干はいたものの確かに大半がそのまま着座していた。ラグビーの聖地にふさわしいイングランドの観戦マナーであり洗練されたスタイルであると感じたが、気質も文化も違う世界の各地から、にわかファンも含め集う、ワールドカップでは観戦スタイルの違いをどう克服するのか、統一した最低限の観戦マナーを周知する必要があるのか、組織委員会の見解を聞く必要がある。

いよいよ今年10月、希望郷いわて国体・いわて大会が開催される。この一大イベントを丁寧に総括することは来たる2019年への教訓となり、レガシーとしても活用できるはずだ。

最後に、ラグビーを縁にして繋がった釜石市と岩手県、グロスター市との今後の発展にも是非とも期待したい。

調査団員　工藤　勝博

2011・3・11 東日本大震災津波の未曽有の大災害から4年と7ヶ月、震災復興が急がれる中、県議会の海外行政視察が田村議長の配慮により再開する運びとなりました。

本年は、第 71 回国民体育大会希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が「広げよう感動・伝えよう感謝」の下、大震災復興に国内外から多大なるご支援を受け、復旧・復興の姿を伝える、国体が開催されます。

このような状況の中で、ラグビーワールドカップ 2019 が日本で開催され、全国 12 開催地の中に岩手釜石が決定されました。東北では唯一の開催地であり、県民に夢と希望を与えてくれました。北の鉄人と呼ばれた釜石ラグビーの足跡を礎に新たな歴史を刻むまたとない絶好の機会でもあります。

ラグビーワールドカップ釜石市開催まで3年余、長いようであっという間にその瞬間がきます。この度の海外行政視察は、2015 年イングランド大会の大会運営について、運営委員会スタッフから取り組みについてあらゆる角度から事こまかく、そして丁寧にお聞きできたことは大きな収穫です。正に百聞は一見に如かず、です。

ラグビー発祥の地、イングランドは長い歴史を経てまさしくラグビーが地域の生活に根差した文化であることが肌で感じられました。また、至る所にラグビー場があり、プロ、アマチュアのチームが多数あり、イングランドラグビー協会が各地のラグビーチームに助成金や貸付金等で支援している仕組みは歴史の重みを感じたところです。

イングランド代表チームの専用スタジアム、トゥイッケナム・スタジアムは 82,000 人収容できるラグビーの聖地と言われ名高い。最上段から見るグランドに息をたたずみ、その威容に圧倒されました。年間の試合数は 30 回程度と以外にも少ないと感じたところです。これだけの規模のスタジアムで国際試合においても警察官の配置はゼロとはただびっくりするばかりでした。

また、釜石鵜住居スタジアムと同規模のグロスター市のキングスホルム・スタジアムは地域密着型のホームスタジアムで、ファミリー、老若男女、そして相手チームのファンが入り混じっての観戦で、互いに応援している姿に感心させられました。

ラグビーの精神「ノーサイド」に改めて脱帽です。

4泊6日の強行スケジュールの中で、組織運営、自治体の取り組み、キャンプ地の取り組み、経済波及効果等の調査視察は釜石市開催に大いに貢献できるものと確信しております。また、グロスター市からは大会の成功に熱い応援も頂き、スポーツの力が各方面に活力を及ぼす事が期待できます。

3年後には、2015・イングランド大会で奇跡的活躍をしたサクラジャージーのオールジャパンがさらに上を目指し大会の成功と、東日本大震災津波の震災復興を世界に示せる釜石市開催になるよう取り組みを強化していきましょう。

調査団員　髙橋　元

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催が決定し、東北での試合会場として釜石市が選ばれたことは、震災復興と新しい街づくりを進める本県にとって、正に未来に希望を輝かせるイベントであります。

また、試合会場地の釜石市に止まらず、出場チームの本戦前の合宿地として、私の居住地北上市をはじめ県内各地が声を上げ、国際基準を満たすべく体制づくりを進める必要が出て来ております。

この様な状況の中で、英国視察団に参加できましたことは、議員各位のご配慮の賜物であり、心から感謝と御礼を申し上げる次第であります。有難う御座いました。

さて所感でありますが、調査全体を通じて感じたことは、何と言っても“ラグビーは英国の国技”国民スポーツにつきます。

8万2千人を収容できるラグビー専用競技場「トゥイッケナム・スタジアム」。 イングランド代表の本拠地とのことでしたが、余りの壮大さに驚きの連続でした。ラグビーは英国が発祥の地であり国技でもあるが、このスタジアムは聖地としての象徴であり、それを守り継承する国民の思いであると感じました。

日本の国技“相撲”ですが、国技館だけで他は各地の体育館が代用であるのに比べ、英国では各地にラグビー場があります。それはラグビーの身近さ、選手層の厚みが違うことに由来するものだと思いました。

釜石市と競技場の収容規模が同等の街グロスター市。この街の競技場で試合が行われました。ラグビー場の四方が観客席という状況、これから建設される釜石市のラグビー場と同様な形状でした。ここを本拠地とする地元チームの試合観戦をしましたが、観客はグロスター市民が圧倒的に多く、対戦チームの応援団も入り混じっての試合観戦でした。勝敗に関係なく、紳士的観戦に感動。観客席の下等では、ビールやジュース類、焼き串肉やポテトステックなど多種おつまみ、そして観客席の傍らで子供向けのゲームなど、日本でいえばプロ野球やプロサッカーのスタジアムと同じ感じがしました。

チェルトナムにおけるキャンプ地では、創立から凡そ 130 年歴史のあるラグビークラブが管理する競技場を見学。クラブハウスと2面のピッチがあり、男女計5チーム、シニアとジュニア各1チームが利用しているとのこと。合宿場として使われた。クラブハウスから 10 分ほどの所にスタンド付きの陸上競技場があり、目隠し状態が出来るとし、ここが試合前の練習場となった。また、向かいには体育館、雨天時のトレーニング場でしたが、フロアーはそれ程広いものではありませんでした。また、更に 10 分位走った街中のスポーツジムで、ウェイトトレーニングとのことでした。合宿場、事前練習場の要件は、秘匿性のラグビーピッチと室内運動場、ウェイトトレーニング場の3点セット、試合会場までの移動時間1時間前後とのことでした。高速道開通で北上市はギリギリでしょうか。多少希望アリです。

国外観客への対応は、これから先のILC誘致時に通じるものがあり、調査の内容を今後の活動、受け入れ態勢づくりに活かしていきたいと思っています。

提言ですが、成功の可否は統括のコーディネーターが重要とのこと。ラグビー選手の立場や観客、特にも会場に入れない方々の立場に立って、受入れ態勢や期間中の運営をできる方、またチームを作ることが大事である、ということです。釜石市も、合宿地に名乗りを上げた地域も、夫々に今からコーディネーターを置いて準備を始めてほしい。

調査団員　嵯峨　壱朗

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会、釜石大会開催の準備と成功のために少しでも役立てばという思いで今回の視察団に参加しました。短い期間でしたが大変有意義な視察調査だったと振り返っております。

偶然ですがロンドン市長選挙が行われておりました。イスラム教徒の新市長の誕生でした。至る所に「polling station(投票所)」が目につき、約一月後にはEU離脱残留を決める国民投票が行われるということで、さぞ盛り上がっていることと考えましたが、さにあらず、いたって静かな選挙戦が行われておりました。そうした最中の英国訪問ということで英国の国の成り立ち、歴史的背景などを再認識する機会ともなりました。

ロンドンについて、街並み、人々の様子を見て感じたこと。古い街並み、地震がないためか、レンガ造りの外装。シャーロックホームズが今でもいそうな雰囲気を醸し出しておりました。多様な人種、肌の色、帝国主義の時代を経て、多民族国家、EU加盟後に大量に流入した移民。想像以上に複雑な国との印象でした。

ラグビーは英国の真の伝統的な国民スポーツでした。私はサッカーだと思っておりましたが、サッカー派とラグビー派があって、背景には人種、階級、職業等で傾向が分かれるとのこと。どちらかというとラグビーは紳士の国、英国的スポーツ。ラグビーワールドカップのメインスタジアムでラグビーの聖地、8万 2,000 人収容のトゥイッケナム・スタジアムで警備の状況を聞いたところ、ラグビーの観客には暴動するような人はいないのでほとんど心配する必要はない、とのことでした。言外のサッカーのファンと同じにするなと言っているようでした。スタジアムには鳩が飛び回っておりましたが試合の時はどうするのか聞いたところ、冗談かと思うような答えが返ってきました。試合の時には鷹を放すのだそうです。鳩はその時だけいなくなるとのこと・・・。

ラグビーワールドカップ 2015 試合会場で最も小さい都市、グロスターを訪問しました。釜石に環境、規模の類似する開催地と言われております。市庁、議会を訪問して市長はじめ市の役職員、元インランド代表からワールドカップ開催の意義、開催に関わっての留置点、その影響など様々な角度から貴重な体験談、意見を聞いてきました。その中で、予算の確保もさることながら、終了後まで見据えた地元住民、企業、団体等とのコミュニケーション、理解の大切さを強調しておりました。さらには試合会場とは別に設置されたファンゾーンの設置です。会場に入れないファンも含めて、スタジアムにいる疑似感覚を共有し、誰もが楽しめるオープンスペースです。盛岡市のどこかに設置するのも一案かもしれません。

グロスター市長ご夫妻との交流会がありました。市長ご夫妻が突然、アカペラで歌を歌い始めました。何と驚いたことに、日本語による「君が代」斉唱でした。また、きれいな声で。それもそのはず、二人の本業は歌手なそうです。釜石大会の開催行事で是非ともお二人に出席いただき、「君が代」を斉唱していただきたいものだと思いました。

まだまだ多くのことを学んでまいりましたが成功の一助になるよう活かしていきたいと思います。

調査団員　城内　愛彦

2011 年3月 11 日に発生した東日本大震災津波により被災した我が岩手県は、世界の沢山の国と地域の善意により、復旧・復興の後押しをしていただいた。

日本における、ラグビーワールドカップ 2019 の開催は、その復旧・復興の過程を世界の皆様に見て、感じて頂く絶好の機会と考えている。特にも、開催 12 会場のうちの1つに本県釜石市が選ばれたことは、スポーツが持つ大きな力である「ファイティングスピリッツ」「フェアプレイ」「ファインプレイ」「フレンドリーシップ」といった見る者を感動させる大きな大会をこの岩手で開催し、再度世界に向けて岩手を情報発信する絶好の機会である。多くの国内外の皆様への「おもてなし」を成功裏に終えるためのノウハウを学ぶことを目的に、先進地である英国の視察に、被災地沿岸の出身者として、大きな期待を持って参加した。

（事前学習について）

視察先での限られた時間を有効に活用すべく、開催成功に向け想定される課題等の整理・予習を行った。自治体国際化協会（クレアロンドン）に関しては、我が県がこれまで経験したことの無い、多くの多言語文化との交流の在り方、受け入れ態勢について、トゥイッケナム・スタジアムに関しては、ラグビー専用スタジアムとしての通年の運営について予習した。また、本県釜石市と同規模の競技場を有するグロスター市に関しては、宿泊施設や、観戦者の受け入れ、キャンプ地の在り方などを予習した。

（現地調査について）

クレアロンドンにおいては、2015 イングランド大会における経済効果が、海外からの誘客約 46 万人でおよそ 4,000 億円程度あったと聞き、その 12 分の1でも岩手に効果がもたらされれば、と期待と不安を覚えた。大会を終えて、英国内の観光スポットの知名度アップにつながった、そのほかにも、少なからず好影響が見られるとのことであった。

トゥイッケナム・スタジアムにおいては、ラグビーの聖地としての位置づけであり、ラグビー博物館を併設し、ラグビー協会が運営をする施設で、年間を通じて収益を得る仕組みは、多くの施設を持つ我が県においても参考となる点が多々見られた。座席収入はもとより、併設するホテル経営、会員制ジム、ショップ、会議室として法人に貸出をする、また、コンサート会場としても利用するなど、多岐に渡っての経営は、見事といえる。そして、収益の一部は、活性化を目的として英国内の下部ラグビー協会に対して配分されており、無利子での貸し付けも行われている。グラウンドの管理については、芝と人工芝のハイブリットであるため、冬場の温水での養生は大変そうであった。

グロスター市役所においては、人口約 12 万人の運河で栄えた町で、どこか釜石市に通ずるところがある歴史のある町であった。大会開催に向け、ラグビーイングランド代表経験者を職員として招聘し、その準備を行った事については特筆すべき点と考える。また、キャンプ地の誘致については、芝のグラウンドはもとより、プールや体育館、トレーニングジムなどハードルの高さを感じた。

結びに、今回、ラグビーの本場であり、発祥の地である英国を訪問して、その歴史の長さと、英国人が誇りを持つ紳士のスポーツであることに、いまさらではあるが、驚きを覚えた。少年から高齢者まで、何らかの形で関わりを持つことで成り立つ文化である事、治安一つをとっても、紳士のスポーツであることから、事件、暴動は起きないと聞き、確かにそうであった。グロスター市において公式戦を観戦し、見る側の成熟した観戦風景を目にし、感動すら覚えた。これらの事が、我が県に根付くまでは、時間がかかるかもしれないが、岩手らしさを前面に出し、初期の目的の一つである、被災地を見て頂き、日本の安全・安心を前面におもてなしをするための準備から始めなければならないと、強く感じた。

調査団員　神﨑　浩之

1　開催国に出向いて、わかった事

(1) あらためて“世界大会である”と感じた

ヒースロー空港でまず目にした光景は、中東の方をはじめ世界の人が集まっていた。アジアでは見慣れない世界の航空機があった。私が知る外国よりさらに幅の広い世界があり、改めて“世界”を感じ、その“世界”を岩手に、釜石にお迎えするのだと緊張を感じた。

(2) 大会終了後も“誇りに思っている”と感じた

開催国、開催地、開催施設では「ラグビーワールドカップを開催したんだ！」終了後も“誇り”としていた。事前キャンプ地を訪れた際、今では普通の地域の運動場であるのだが「PROUD FOR　A　TEAM　BASE(キャンプ地に選ばれたことは我々市民の誇りだ)」と誇らしくエンブレムが輝いていた。

(3) ラグビー発祥地本場英国の施設であっても・・・、ひるむことはない

「駐車場は、トイレの数は、交通手段は・・・」様々な心配を持って訪問したのだが、本場の施設であろうと駐車場は間に合うくらい無い、トイレはもちろん行列・・・、100％でハード面が整備されていたわけでなく、気負うことはないと感じた。

ただし、「安全面」と、ハードを補う「ソフト面での配慮」は見習うべきである。ハード面での少々の不満があったにせよ“ラグビーを愛し、ラグビーを観たい”そういう気持ちも補完していたのであろう。

2　開催国に出向いて、得た大事な情報

(1) 組織委員会から物心両面の支援があった事

ワールドカップの施設基準はかなり高いもので、「事前キャンプ地」に立候補した 81 ヶ所のうち、基準をクリアできたのはたったの2ヶ所だった。本場英国においてもハイレベルなものである。しかし組織委員会が必要と認めれば、委員会で投資し施設をアップグレードし基準をクリアしたという情報を得た。

(2) イングランド・ラグビー協会からの支援があった事

ワールドカップ開催のレガシー効果として、開催の収益が出たことにより、協会から補助金があったり、無利子ローンを組んだり、それによりピッチの整備や照明の整備を行ったという情報を得た。

3　所感と提言

(1) ボランティアの体制整備を急ぐべし

「ボランティアなくしての開催は困難であった。」ハード面での補完はボランティアの人的対応であった。ワールドカップ開催時の運営スタッフは、アルバイト 4,000 人＋ボランティア 800 人（無償）にて対応した。そのボランティアの気運やシステムは、ロンドンオリンピックでの経験が活かされたという事だった。

(2) 障がい者への対応を見習うべし

車いす観戦者の席は、ラグビーの聖地「トウイッケナム・スタジアム」において、ピッチの四方を囲む前列の全部 400 席であった。最前列にもかかわらず料金は無料、介護者も無料である。グロスター公式戦において、車いすにて楽しんで観戦されていたのを目にした。

(3) 試合時間のみでなく、試合その1日を楽しむべし

グロスター公式戦視察において、視察団は現地観戦客へのアンケート調査もあり、かなり早い時間に会場に到着したが、既に会場周辺には応援するチームのジャージーを着て、いたる所でラグビー談義に大いに盛り上がり、お祭りのようであった。開始時間に集まり終了したら帰る、という行動ではなく、試合時間の3倍は滞在し、その日１日をラグビーで楽しむという文化を感じた。

ラグビーワールドカップ 2019 の開催地であることに誇りを持ち、英国で見て聞いて調べ感じた事、そして今回得た人的ネットワークを活用し、地元のためにも、世界から訪れる方にも喜ばれる大会としたい。

調査団員　佐々木　宣和

はじめに岩手県議会として７年ぶりの海外行政視察の団員に選ばれたことを誇りに思うとともに、先輩議員の皆様に心から感謝申し上げます。

まず全日程を通して感じたことですが、イギリス人特有のプライド（誇り）を強く感じました。英国がラグビー発祥の地ということは有名な話ですが、フットボール（ラグビー、サッカー）というスポーツが文化、伝統として意識されていること。ラグビーを応援することが地域振興でありスポーツ振興であるというような感覚です。視察先のグロスターのチームは約140年という歴史を誇るチームで親子4代から5代で応援している計算になります。そしてフットボールが町対町、地域対地域の対決であり、何百年という歴史があること、遺伝子レベルでフットボールを愛している、誇りに感じていると思いました。このことから改めてラグビーワールドカップの開催地としてラグビーというスポーツに対するリスペクトをきちんと意識として持つことが重要であり、それを行動で示すには、新日鉄釜石日本選手権7連覇の偉業の掘り起こしであり、大学ラグビーファンの掘り起こし（OB会等への呼びかけ）、現在ラグビーに取組む人たちへの協力依頼が改めて必要だと感じました。そして伝統で遅れを取っている点で岩手だけでなく東北というスケール感を持って取組むべきだと考えます。

次に日本ですとラグビーに限らずスポーツは外来のものであり、まだまだ文化というレベルにはいたっていないと思います。また日本のトップスポーツは今まで企業が支えてきた経緯があり、地域スポーツ、地域社会との連動がJリーグの頑張りもあり今必要と言われているところだと思います。英国では地域リーグ、クラブチームのピラミッド構造がきちんと構築されていて、日本での部活と違いスポーツは学校と切り離されていると感じました。今回世界的なイベントを期に岩手のトップスポーツと地域スポーツ（部活も含めて）、地元住民やコミュニティ、企業の連携を考えるよい機会になると感じましたし、成功のポイントはいかにこれらの様々な関係機関等のパートナーとの連携を保ち、希望を摺り合わせていくかだと感じました。

さて、視察先のグロスター市は日本でいうトップリーグのチームがあり、またかつて水害で被災した町であり、ラグビーワールドカップを通じて復興に取り組み貢献していくという点で釜石市と非常に共通点が多くあります。また私自身グロスターのキングスホルム・スタジアムでアンケートを実施して、実際にグロスターの方と話して感じたことは、非常に日本に対して好意的ということです。これは先のラグビーワールドカップで日本戦を2試合やったことで日本に対する興味が掘り起こされた状態にあると感じました。またアンケートでは2週間ほど滞在し、3試合ほど試合を見る、試合以外は観光やグルメに時間を使うとの回答をもらいました。そして情報ツールはWebが圧倒的に支持されました。釜石を中心とした東北周遊ルートをWeb上に非常にわかりやすい英語表現で作り上げることは必須であると思います。以上のことからも、イギリス人ないしはヨーロッパから日本に観戦に来る方を想定し、グロスター市からアドバイスをもらうことは非常に有効であると考えます。

最後に一番印象に残ったQAをあげます、グロスターで開催の実務トップの方に聞きました。

「ワールドカップの開催地に選ばれることはどういうことか、何が得られたか?」

「世界地図に自分の町をポイントすること、得られたものは地域の一員であるプライド＝誇り」

「それだけ栄誉あることで、それだけ興奮すること。だから最高に楽しんで自分の町を世界に向けて自慢したらいい。ハードな仕事になるだろうが多くの人とそれを共有することで地域の一員である誇りを高める。それが将来に繋がる。」との言葉をいただきました。

さいごに

RWC2015英国大会は「ラグビーワールドカップ史上最高の大会」と言われている。その理由を探りに英国に調査に行った。英国大会ではどのような準備がされたのか、そしてそれはどのような考えに基づくものなのか、と。

4泊6日の日程。午前も午後も通訳はいるが基本的に英語での会議、もしくは移動。体力的にかなりきつかったが充実感と爽快感のある調査だった。「今までの日本から来た議会の海外行政視察とは全く違う」、とJTBから派遣された現地の通訳の方が驚いていた。「視察の目的が1点（RWC岩手大会の成功）に集約されており、議員さんの熱意が全然違う」とのコメントを頂いた。

帰国1ヶ月後の6月初旬、グロスター市とのスケジュール調整をお願いした東京の代理店から一通の手紙を受け取った。グロスター市から岩手県内の自治体若しくは釜石市と姉妹都市提携を結びたい、と打診があったとの事。我々視察団の思いは確実に相手に伝わっている。

この視察調査に向けた準備と事前勉強会に多くの時間を使い、この報告書には多くの「提言」は盛り込めなかったかもしれない。しかし英国視察を終え改めて考えたことは、根本的に「国際大会を日本で、被災地で、岩手で、釜石で開催する意味は何か」なのだ。

英国で一番大きいグラウンド（トゥイッケナム）を視察した時、案内してくれた初老の紳士が「古いことが良いことだ」と言っていたのが強烈に記憶に残る。「古いもの」や「古くからあるもの」「伝統」を守ることが英国のアイデンティティであり、これが英国人の思想の根幹を為し、英国人のプライド（誇り）となっている、と感じた。

大会の成否を左右するのは「人」だ、と改めて感じた。

平成31年、世界の人々に対し、「RWC岩手開催の意義」と「世界から尊敬される日本人であること」を示すことがRWC2019岩手大会の成功の最大のカギとなる。

平成 28 年7月 27 日

岩手県議会　英国視察団
事務局長　小野　共

（添付資料1）

RWC日本大会についてのアンケート用紙（キングスホルムスタジアムにて）（英文）

A survey in Gloucester about the 2019 Rugby World Cup in Japan

Iwate Prefecture Government, JAPAN

Please answer the following questions.Feel free to write in your own ideas.

1. Place of residence
   A) Within the city of Gloucester
   B) Outside the city of Gloucester　(Please specify:　　)

2. Gender
   A) Male
   B) Female

3. Occupation
   A) Company employee
   B) Self-employed / Business owner
   C) Public employee
   D) Student
   E) Retired
   F) Other

4. Have you ever been to watch a Rugby World Cup match in person?
   A) Yes
   B) No

5. Are you considering travelling to Japan to watch the 2019 Rugby World Cup?
   A) Yes
   B) No

(The following questions apply to people who answered "A) Yes" to question 5.)

6. Hypothetically, how many days would you spend in Japan, and how many matches would you attend?
   A) Days in Japan
      Around　　days.
   B) Rugby matches
      Around　　matches.

7. What would your budget for the trip be?
   Around　£

8. What would your main method of transport be within Japan? Please circle one option.
   A) Train
   B) Rental car
   C) Bus
   D) Aeroplane
   E) Other

9. Aside from watching rugby matches, what activities would you do in Japan? (circle all that apply)
   A) Sightseeing
   B) Hot spring baths
   C) Shopping
   D) Museums
   E) Dining
   F) Trekking
   G) Watch other sports
   H) Theatre
   I) Other

10. Required facilities and services (circle all that apply)
    Please circle the facilities and services you would regard as being very important if you came to Japan for the 2019 Rugby World Cup. (Facilities and services you would like to be fully established)

    A) English information
    B) Restaurants
    C) Wi-fi
    D) Bars
    E) Swimming pools
    F) Gyms
    G) Health services
    H) Nurseries

11. Tools for gathering information about a trip to Japan for the Rugby World Cup. (circle all that apply)
    If you were planning a trip to Japan for the Rugby World Cup, what methods would you use to gather information in advance?

    A) Web
    B) Tour guides
    C) Friends
    D) Travel agents
    E) Travel magazines
    F) TV
    G) Other

12. Which of the 12 host cities for the 2019 tournament have you heard of? Please circle all that apply.

    A) Sapporo
    B) Kamaishi (Iwate Prefecture)
    C) Kumagaya (Saitama Prefecture)
    D) Tokyo
    E) Yokohama
    F) Shizuoka
    G) Toyota (Aichi Prefecture)
    H) Kobe
    I) Fukuoka
    J) Kumamoto (Kumamoto Prefecture)
    K) Oita (Oita Prefecture)

Thank you very much for taking part in this survey.
We hope to welcome you to Kamaishi, in Iwate, for the 2019 Rugby World Cup.

（添付資料2）

RWC日本大会についてのアンケート用紙(キングスホルムスタジアムにて)(日本文)

ラグビーワールドカップ２０１９日本大会に関するアンケート調査 in グロスター市

1．居住地（今日はどこから来ましたか）

A) グロスター市内
B) グロスター市外（具体的に　　）

2．性別
A) 男性
B) 女性

3．職業
A) 会社員
B) 自営業・経営者
C) 公務員
D) 学生
E) リタイヤ
F) その他

4．ラグビーワールドカップ観戦経験の有無
A) 観戦経験あり
B) 観戦経験なし

5．ラグビーワールドカップ 2019 日本大会へ行きたいですか？
A) 行きたい
B) 行きたいとは思わない

（Q５で『A）行きたい』と答えた人へお聞きします。）

6．日本での想定滞在期間と観戦試合数を教えてください。
A) 日本に滞在したい期間
約　　日間
B) 日本で観戦したい試合数
　　試合程度

7．想定している日本での予算
約　　ポンド

8．日本国内での主な移動交通手段は何ですか。１つに○をつけてください。
A) 鉄道
B) レンタカー
C) バス
D) 飛行機
E) その他

９．ラグビー観戦以外の日本でのアクティビィティは何ですか。（複数回答可）

A) 観光
B) 温泉
C) ショッピング
D) ミュージアム
E) グルメ
F) トレッキング
G) 他のスポーツ観戦
H) 観劇・劇場
I) その他

10. 必要設備及びサービス（複数回答可）

RWC２０１９の観戦ツアーで貴方が日本に来たときに重要視する設備やサービスに○をつけてください。（充実していてほしい設備、サービス）

A) 英語の情報
B) レストラン
C) Wifi
D) バー
E) プール
F) ジム
G) 医療
H) 託児所

11. 日本でのラグビーワールドカップ観戦旅行に関する情報のツール（複数回答可）

貴方が RWC2019 日本大会に来る場合、事前にどのようなツールを利用して旅行情報を収集しますか。

A) Web
B) ツアーガイド
C) 友人
D) 旅行会社
E) 旅行雑誌
F) TV
G) その他

12. ２０１９日本大会の開催１２都市を知っていますか。（認知度調査）

あなたが知っている開催都市すべてに○をつけてください。

A) 札幌市
B) 岩手県釜石市
C) 埼玉県熊谷市
D) 東京
E) 横浜市
F) 静岡
G) 愛知県豊田市
H) 神戸市
I) 福岡市
J) 熊本県熊本市
K) 大分県大分市

ご協力ありがとうございました。

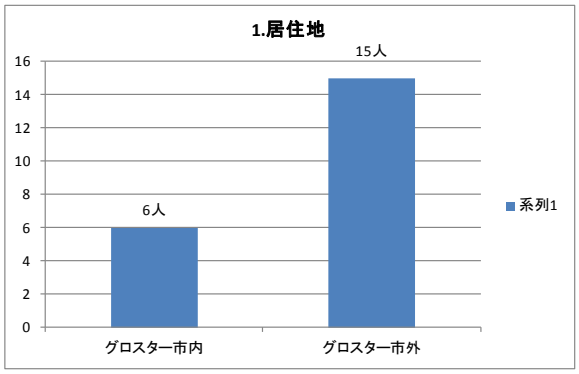
２０１９年日本大会、岩手県釜石市でお待ちしています。

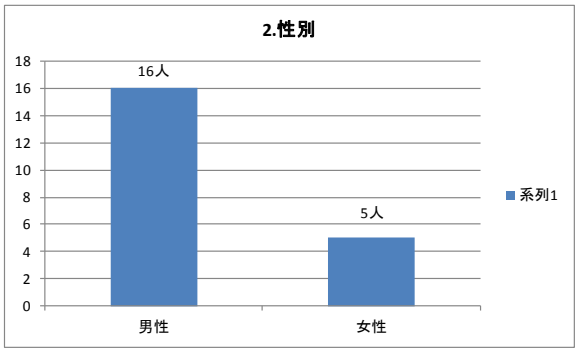
（添付資料3）

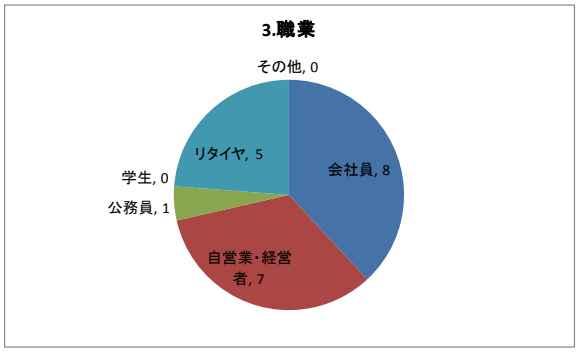
RWC2019 日本大会に関するアンケート結果

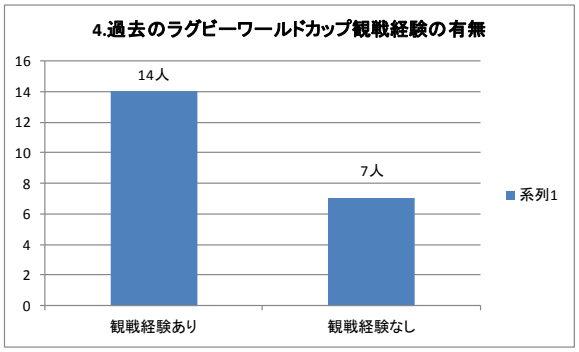
ラグビーワールドカップ2019日本大会に関するアンケート調査inグロスター市

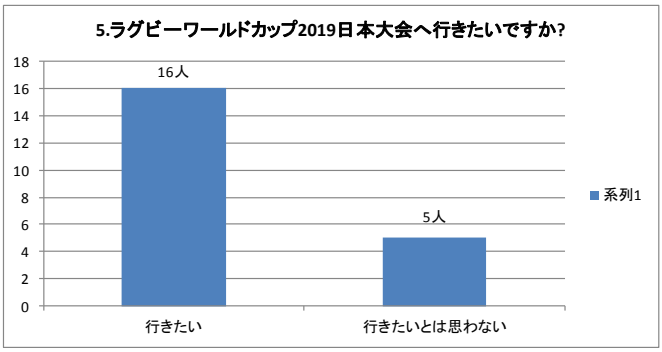
【サンプル数21】

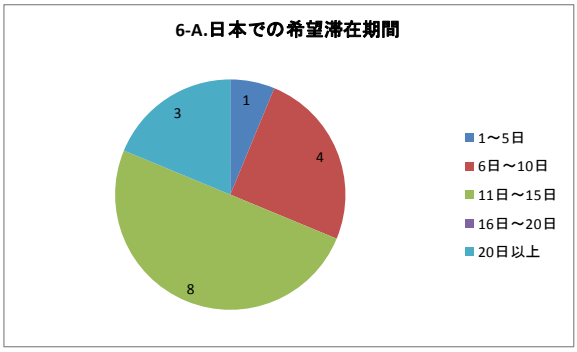


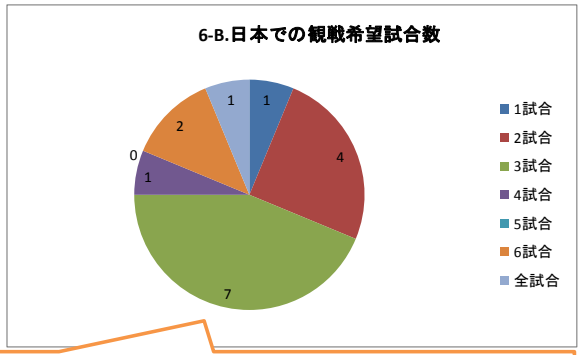




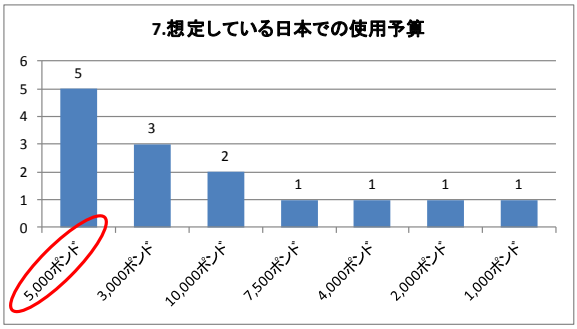


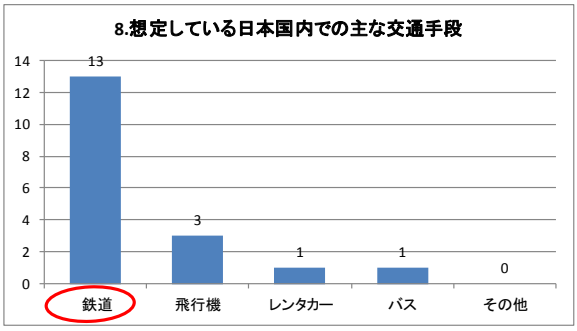


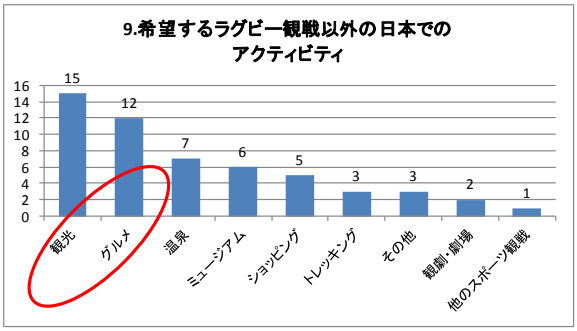


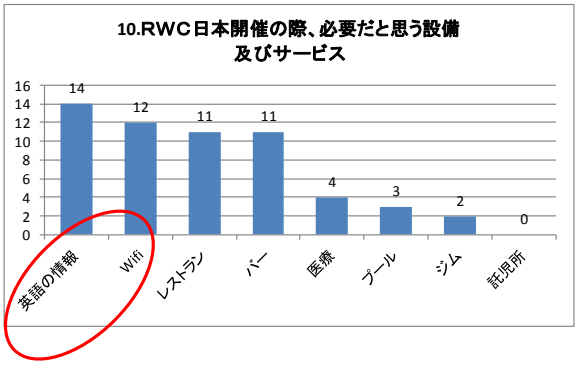


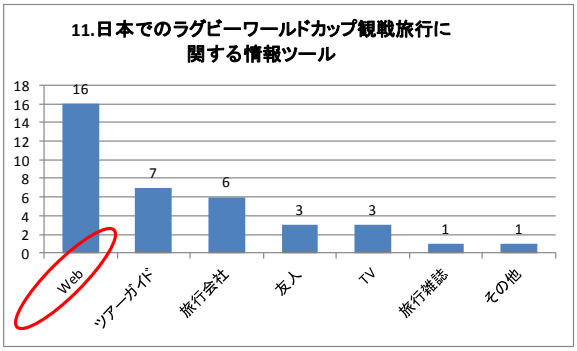
「3試合」を観戦したいとする声が最多。
W杯の試合間隔を考えれば、「6-A滞在希望期間」の回答ともちょうどリンクする。

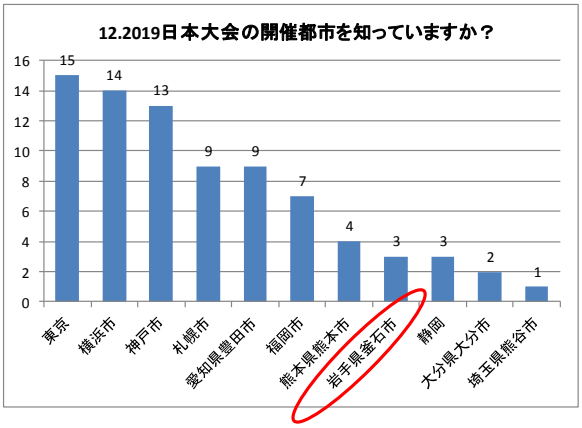

7.想定している日本での使用予算
5
3
2
1
1
1
1
5,000ポンド
3,000ポンド
10,000ポンド
7,500ポンド
4,000ポンド
2,000ポンド
1,000ポンド

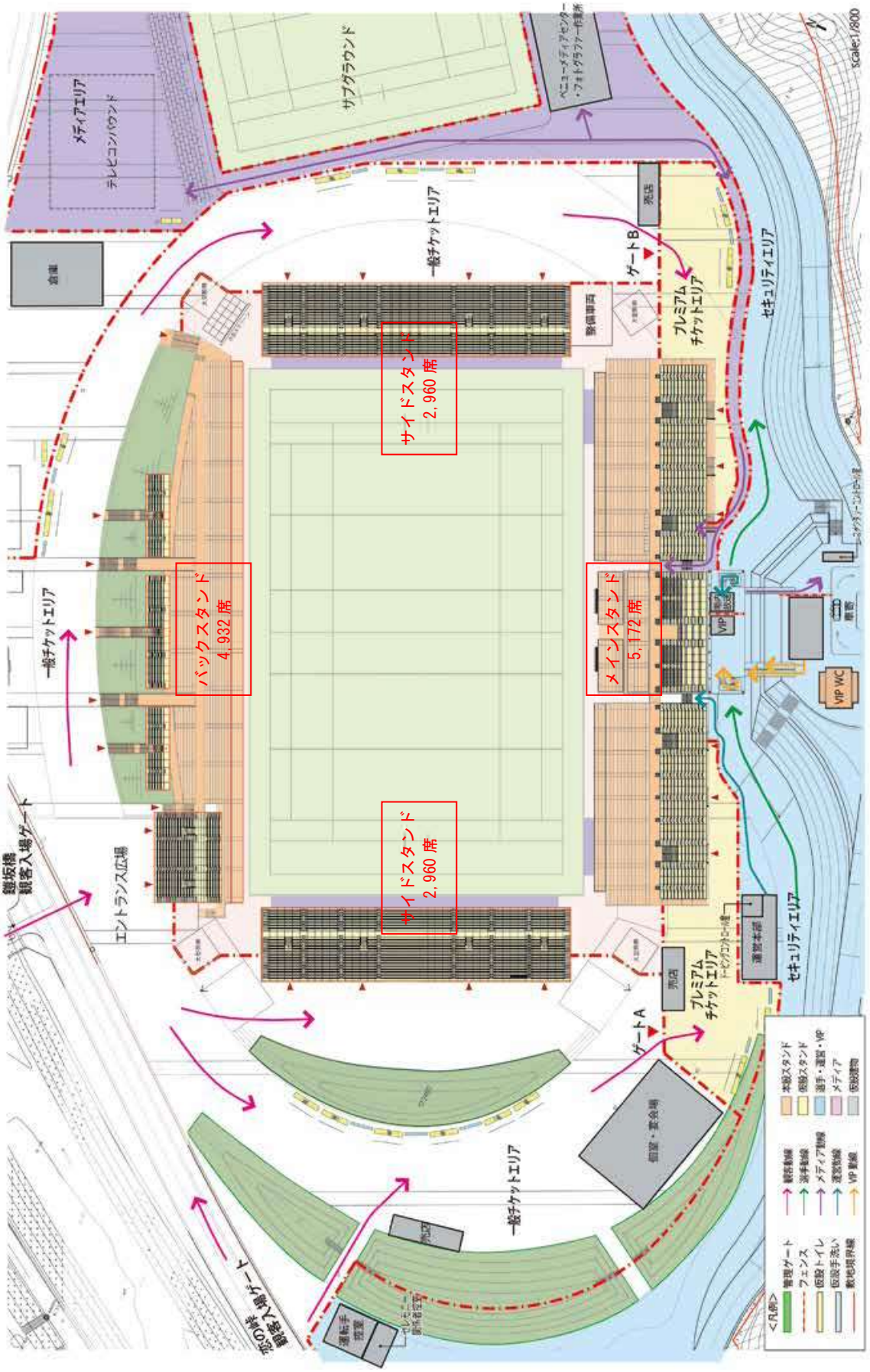

8.想定している日本国内での主な交通手段
13
3
1
1
0
鉄道
飛行機
レンタカー
バス
その他


9.希望するラグビー観戦以外の日本での
アクティビティ
15
12
7
6
5
3
3
2
1
観光
グルメ
温泉
ミュージアム
ショッピング
トレッキング
その他
観劇・劇場
他のスポーツ観戦


10.RWC日本開催の際、必要だと思う設備
及びサービス
14
12
11
11
4
3
2
0
英語の情報
Wifi
レストラン
バー
医療
プール
ジム
託児所


11.日本でのラグビーワールドカップ観戦旅行に
関する情報ツール
16
7
6
3
3
1
1
Web
ツアーガイド
旅行会社
友人
TV
旅行雑誌
その他


12.2019日本大会の開催都市を知っていますか？
15
14
13
9
9
7
4
3
3
2
1
東京
横浜市
神戸市
札幌市
愛知県豊田市
福岡市
熊本県熊本市
岩手県釜石市
静岡
大分県大分市
埼玉県熊谷市

（添付資料4）

鵜住居復興スタジアム図案